



GOOD
HOLDINGS

SUSTAINABILITY REPORT 2026

グッドホールディングスグループ サステナビリティレポート

Challenge To The Future

未来への挑戦

Challenge To The Future

未来への挑戦

グッドホールディングスグループは、創業以来、その時代の社会課題を解決することで事業を展開してきました。

どんな時も、社会とその未来を見据え、解決すべき社会課題に真摯に取り組み、その度に自らも成長する。

これが1953年から続く私たちの事業の軌跡です。

そして70年の時を経た今、未来の地球と、そこに生きる子どもたちのために、

環境ビジネスがこれまでになく重要な役割を担う時代となりました。

2026年7月、グッドホールディングス株式会社は赤澤正人を代表取締役を迎え、新体制へと移行しました。

これまでに築き上げてきた強固な組織基盤と「五方よし」の精神を大切に受け継ぎながら、

時代や社会の急速な変化に迅速かつ柔軟に対応し、

グループ各社の強みを最大限に活かした次世代の環境インフラ構築へ向けて力強く舵を切っています。

私たちの使命は、子どもたち、またその子どもたちが暮らす社会をよりよいものにする環境ビジネスを創っていくこと。

新体制となったグループが一丸となり、社会課題解決に真摯に向き合い、未来への挑戦を続けてまいります。

CORPORATE MESSAGE

捉える、応える、超えていく

毎日グッドを創る。

少しずつ、創っていく。

その仕事がなんであろうと。

どこであろうと。はじめでも、おわりでも。

それは、人を、地域を、社会を、

ちょっとだけ前に、わずかだけ先に、

進ませるものであると信じたい。

捉えよう。そこにある問題を、わたしたちにしかない目で。

応えよう。わたしたちにしかできない方法で。

超えていこう。今あるわたしたちの姿を。

編集方針

「サステナビリティレポート」は、お客様をはじめ、地域住民の方々や従業員とその家族、ステークホルダーのみなさまに、グッドホールディングスグループがめざす姿や持続的な成長、企業価値向上の取り組みについて、より一層ご理解いただけるよう毎年発行しております。

2025年度は、長期ビジョンプロジェクトに基づき、「Challenge To The Future (未来への挑戦)」をテーマに制作いたしました。

対象期間

2025年度(2025年4月～2026年3月)

※一部、直近の重要な取り組みや活動報告を含みます。

対象組織

グッドホールディングス株式会社、株式会社リヴァックス、株式会社swell、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社大栄衛生、株式会社大協

※報告書は各社のホームページでも公開しております。

発行月

2026年10月(次回発行予定：2027年10月)

対象分野

事業活動に関する環境的側面、社会的側面、経済的側面

参考ガイドライン

社会的責任に関する国際規格「ISO26000」
GRIガイドライン第4版／環境省「環境報告ガイドライン」

本レポートでは、ISO26000「社会的責任に関する手引き」の中核主題である7項目をもとに、「ダイバーシティ・働きがい、労働環境・安全・健康(人権、労働慣行)」、「脱炭素、資源循環・環境保全(環境)」、「社外活動(消費者課題、コミュニティへの参画およびコミュニティの発展)」、「社内活動(組織統治、公正な事業慣行)」の通り、編集しております。

CONTENTS

01-02	未来への挑戦
03-04	グッドホールディングスグループ概要／沿革
05-06	財務情報／重要課題とテーマ
	2025年度トピックス
07-08	経営理念／行動指針／SDGsへの取り組み
09-10	トップメッセージ

11-14	【特集】G career Story
-------	--------------------

事業紹介

15-20	株式会社リヴァックス
21-22	株式会社swell
23-26	株式会社リリーフ
27-28	株式会社ダイキョウクリーン
29-30	株式会社大栄衛生
31-32	株式会社大協

ESGの取り組み

33-34	サステナビリティ基本方針／重要課題
35-36	ダイバーシティ・働きがい
37-38	労働環境・安全・健康
39-40	脱炭素
41-42	資源循環・環境保全／法令遵守
43-44	社外活動
45-46	社内活動
47-52	苦情・事故／データ・資料集

社会課題を捉え、
応える力で、
未来の社会に貢献します

私たちは、常にその時代の社会課題に向き合い、解決に尽力することで事業を展開させてきました。

1960年に家庭ごみ収集事業からスタートした事業は、1970年代の産業廃棄物の社会問題化を受けて産業廃棄物処理事業に展開。2000年代には人材不足、高齢化社会、食品ロスといった社会課題に取り組み、事業化を実現させてきました。

そして、2023年1月にはバイオガス発電プラントが竣工し、食品リサイクル事業が再生可能エネルギー事業へと展開を遂げました。

私たちは「社会とともにある企業」として、これからも社会課題を捉え、応える力で未来の社会に貢献します。



GOOD HOLDINGS

グッドホールディングス株式会社

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
代表者名：代表取締役社長 赤澤 正人
設立：1960年 資本金：96百万円
従業員数：10名

事業内容
グループ財務・経理・人事・労務・広報、
経営支援および総合戦略の策定

連結売上高 5,623百万円 ※1

※1 単位未満切り捨て（特に断りのない場合、以降も同様）

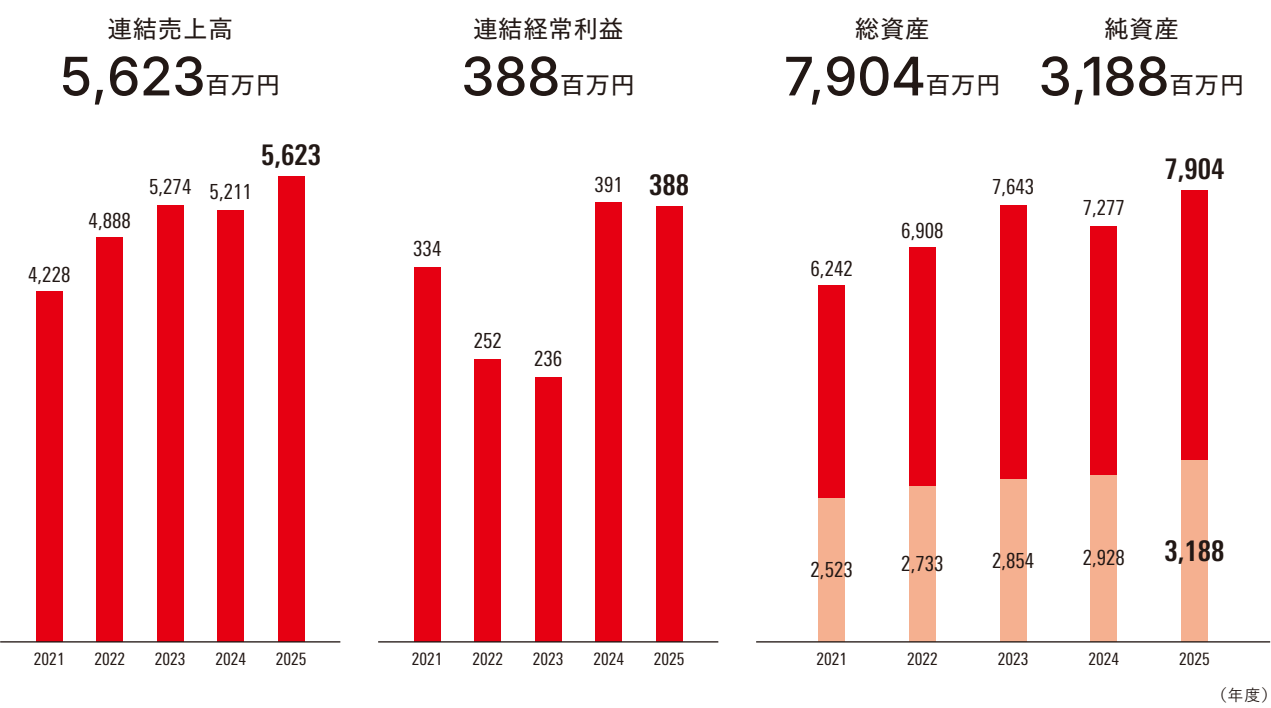
グループ従業員数 405名 ※2

※2 従業員数は常用雇用者（社会保険負担をしている者：従業員兼務役員除く）の数

株式会社 リヴァックス 産業廃棄物の収集運搬・中間処理 食品リサイクル・バイオガス発電	所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号 代表者名：代表取締役社長 畑井 浩希 資本金：81百万円 従業員数：61名 売上高：1,328百万円	事業内容 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬 産業廃棄物の中間処理（破碎・乾燥・メタン発酵） 食品リサイクル・バイオガス発電
株式会社 swell 排水処理施設などのプラント設備清掃 産業廃棄物の収集運搬	所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号 代表者名：代表取締役社長 稲富 啓介 資本金：10百万円 従業員数：21名 売上高：957百万円	事業内容 排水処理施設などの堆積物の回収、汚水の洗浄 設備内に堆積したダストの回収 産業廃棄物の収集運搬
株式会社 リリーフ おかたづけサービス リユースサービス	所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号 代表者名：代表取締役社長 赤澤 知宣 資本金：50百万円 従業員数：65名 売上高：832百万円	事業内容 おかたづけサービス （遺品整理、生前整理、残置物撤去） リユースサービス
株式会社 ダイキョウクリーン グリストラップ清掃	所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号 代表者名：代表取締役社長 津田 政房 資本金：80百万円 従業員数：62名 売上高：764百万円	事業内容 グリストラップや排水管を含む 水回りの衛生維持管理サービス
株式会社 大栄衛生 西宮市のごみ収集事業	所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号 代表者名：代表取締役社長 赤澤 健一 資本金：10百万円 従業員数：85名 売上高：964百万円	事業内容 一般廃棄物の収集運搬（西宮市） 産業廃棄物の収集運搬
株式会社 大協 伊丹市のごみ収集事業 人材派遣事業	所在地：兵庫県伊丹市北河原5丁目3番31号 代表者名：代表取締役社長 平井 里美 資本金：10百万円 従業員数：101名 売上高：783百万円	事業内容 一般廃棄物の収集運搬（伊丹市） 産業廃棄物の収集運搬 人材派遣・人材紹介

※すべて100％子会社 ※従業員数および売上高は、2026年3月31日現在のデータに基づいております。

グッドホールディングスグループの歩み	社会の変遷
▶1950ー ▶1980ー ▶1990ー ▶2000ー ▶2010ー ▶2020ー 1953 創業者が廃棄物回収業を創業 1968 有限会社大栄衛生を設立 1974 大栄サービス株式会社を設立（リヴァックス） 1976 有限会社大協工業所を設立 1984 処理センターを兵庫県西宮市鳴尾浜に設置（リヴァックス） 1999 同業他社との協調体制（アライアンス事業）構築（リヴァックス） 2002 CSR報告書（現サステナビリティレポート）発行スタート 2006 産業廃棄物の破碎施設をリニューアル（リヴァックス） 大協工業所を株式会社に改組および大協に商号変更 計量器付き収集車両の導入（大栄衛生・大協） 2007 有機性産業廃棄物の乾燥処理施設が完成（リヴァックス） 同時にバイオマス燃料化事業を開始 2008 廃棄飲料系商品のリサイクル事業のため、 リバースマネジメントセンターを新設（リヴァックス） 甲山農地プロジェクト（現こども農業塾）を開始 JICA研修の受入れを開始 関西大学第一中学校の施設見学受入れを開始（リヴァックス） 2009 大栄サービスの社名をリヴァックスに変更 2010 グリストラップ清掃事業を開始（ダイキョウクリーン） 2011 おかたづけサービス事業を開始（リリーフ） 2013 海外リユース事業を開始（リリーフ） 2014 関東事業所を東京都足立区に開設（リリーフ） swell事業を開始（リヴァックス） バイオマスボイラーを新設（リヴァックス） 2015 チャイルドドリームへの寄付を開始 埼玉県三郷市に関東事業所を開設（リリーフ・ダイキョウクリーン） 2016 ホールディングス体制へ移行 五方よしの経営理念策定 リヴァックスホールディングスの社名を グッドホールディングスに変更 2017 グループとして東京都千代田区に東京オフィスを開設 さくらチーム発足（大栄衛生） 人材派遣・人材紹介事業（G career）を開始（大協） 2018 人事制度見直し 2020 フードバンクへの寄付を開始（リヴァックス） 2022 神奈川県横浜市内に京浜事業所を開設（ダイキョウクリーン） 2023 西宮バイオガス発電プラントが完成（リヴァックス） 2024 武庫川女子大学と包括連携協定を締結 2025 神奈川県川崎市に京浜支所を開設（リリーフ） 2026 ジモティースポット西宮浜店をオープン（リリーフ）	1960年代 高度成長期 1970 「廃棄物処理法」制定により、 一般廃棄物と産業廃棄物という概念が誕生 1980年代 バブル経済 1985頃～ 家庭ごみの排出量が急増し始める 1990 バブル崩壊 1995 「容器包装リサイクル法」制定 1997 「京都議定書」 地球温暖化の原因となるCO₂などの削減率が定められる 2000 一人当たりの家庭ごみ（一般廃棄物）排出量が減少し始める あらゆる廃棄物においてリデュース、リユース、リサイクルを 主軸とした時代へ 2001 「廃棄物処理法」改正により、 廃棄物処理のマニフェスト制度がさらに強化 コンプライアンスの遵守が重要視される時代へ 2007 「改正容器包装リサイクル法」完全施行により、 さらに社会の「ごみの減量化」への意識が高まる 2013 「カンクン合意」にて、日本の温室効果ガス削減目標を 「2020年度までに2005年度比で排出量を3.8％削減」とする 孤独死者数が急増し、社会問題化 2015 「パリ協定」にて、日本の2030年度の温室効果ガスの排出を 2013年度の水準から26％削減することを目指す SDGs（持続可能な開発目標）が策定される 2018 食品ロスが社会問題に 2020 菅総理所信表明演説で 「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を宣言 2021 気候サミットにて日本の2030年度の温室効果ガス 削減目標を「2013年度から46％削減」と宣言 2022 「プラスチック資源循環法」施行 プラスチック製品の設計から排出・再資源化までの 資源循環体制が強化 2023 「GX推進法」施行 2050年CNに向けた脱炭素化と経済成長の 両立への取り組みが本格化



重要課題とテーマ

ダイバーシティ・働きがい

テーマ

女性活躍の推進（あらゆる職種で女性が活躍できるようにする）

	2025年3月末	2026年3月末
女性比率（契約社員含む、役員含む）	13.42%	15.60%
女性役職者比率（主任以上、役員含む）	11.82%	15.52%

ダイバーシティの推進（高齢者、障がい者、外国人材の雇用）

	2025年3月末	2026年3月末
障がい者延べ雇用人数	5名	8名

労働環境・安全・健康

テーマ

安全な職場環境づくり

	2025年3月末	2026年3月末
休業労災	13件	15件

脱炭素

テーマ

事業活動におけるCO₂排出量の削減（2030年度目標 4,330t-CO₂の達成）

	2025年3月末	2026年3月末
GHG排出量（Scope1,2）	3,987t-CO ₂	4,022t-CO ₂

事業活動を通じて社会全体のCO₂排出量削減に貢献

	2025年3月末	2026年3月末
売電量	2,995MWh	2,475MWh

TOPICS

グッドホールディングスグループ 2025年度 トピックス

優良健康法人認定を取得

株式会社リリーフは、従業員の健康に配慮した経営が評価され、経済産業省と健康経営優良法人認定事務局が選定する「健康経営優良法人2026（中小規模法人部門）」に認定されました。



産学連携による施設見学を行いました

株式会社リヴァックスでは、2025年6月に武庫川女子大学の学生を「西宮バイオガス発電プラント」に招き、実地見学や課題解決型の課外活動を実施いたしました。



こども農業塾を開催しました

甲山の豊かな自然の中で、子どもたちが土づくりや米づくりを体験し、自然や食、農業について学ぶ取り組み「こども農業塾」。NPO法人こども環境活動支援協会様と協働で開催し、2025年度は10組の家族が全5回の活動に参加しました。



ISO45001を取得

株式会社swellは2025年9月、新たにISO45001（労働安全衛生マネジメントシステム）を認証取得いたしました。



ひょうご仕事と生活の調和推進企業に認定

株式会社リリーフは、社員のワーク・ライフ・バランスに向けた取り組みが評価され、兵庫県より「ひょうご仕事と生活の調和推進企業」に認定されました。



「お仕事ノート」を通じたキャリア教育支援を実施

株式会社大協は、伊丹市内の小学校で配布される2026年度版の副読本『小学生のためのお仕事ノート』に事業内容を掲載。誌面を通じて、子どもたちにごみ収集の仕事を身近に感じ、将来を考えるきっかけを提供しました。



セーリングチームが試乗会を開催しました

2025年9月7日、当グループの従業員とご家族を対象に試乗会を開催しました。天候に恵まれ、小さなお子様をはじめ従業員やご家族のみなさまに大いに楽しんでいただくことができました。懇親会では、いつも支援していただいているみなさまに御礼と、来るレースに向けての意気込みをお伝えでき、チーム一同さらに頑張ろうと気持ちを引き締めた一日となりました。



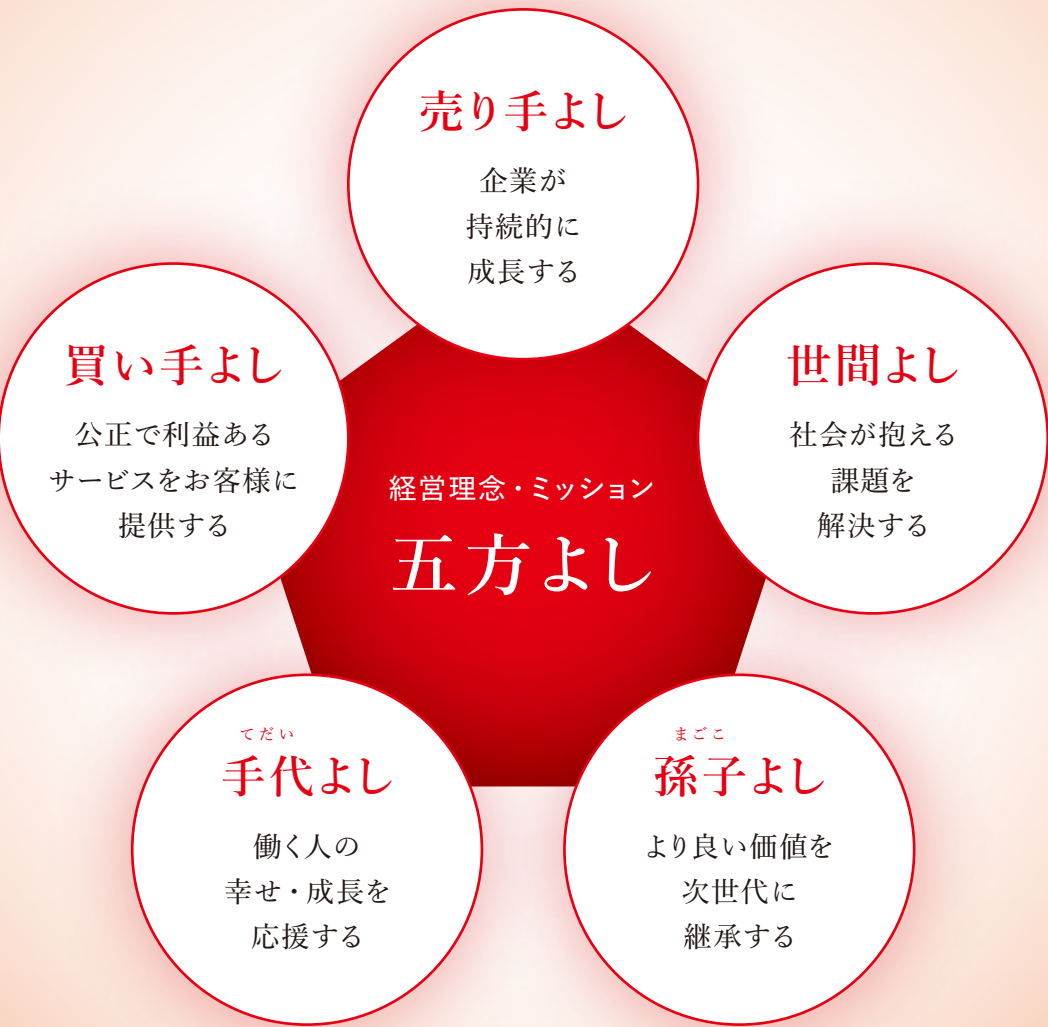
経営理念

「五方よし」の経営理念のもと
環境ビジネスを通して
未来の明るい社会を創ることをめざします

私たちが掲げる経営理念「五方よし」は、近江商人が商売訓としていた「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」に、事業に従事する社員を含む関係者が自らの成長と豊かさを実感できる「手代^{てだい}よし」、未来の担い手である次世代への責任と持続可能な社会の構築に取り組む「孫子^{まごこ}よし」を加えたものです。

地域の方々や取引先、行政機関、社員やその家族といったさまざまなステークホルダーとの関係を大切にしながら、常に時代の先を見据えて未来に向かって進化する。「いま、社会にとって何が大切なのか」「未来の社会のためにどのような事業を行うべきか」を常に意識し、社会課題に応えていくことが私たちの使命です。

グッドホールディングスグループの価値創造



行動指針

私たちの「行動指針」は、
進化し続ける姿勢を
育んでいます

私たちが展開する環境ビジネスは社会の基盤を形成する重要なもの。地域社会との信頼関係を第一に、すべての従業員が凡事徹底を基本に確かな責任と誇りをもって仕事に取り組んでいます。だからこそ、その時代が必要としている新たなサービスを創り出すことが可能なのです。

1 責任とプライドを持って
仕事に取り組む

お客様から報酬をいただいている自覚を持ち、常にお客様に満足いただける結果（成果）を残せるよう高いプライドを持ちながら仕事に対して真摯に取り組む

2 自主性と協調性の
バランスをとる

「今、自分が何をすべきか自ら考えて実践する」という自主性と、「みんなのために考え、協力して物事に取り組む」という協調性のバランスをとる

3 前向きにチャレンジする

現状に満足せず、前向きに新しいことにチャレンジし続け、「仕事を真剣に取り組むからこそ楽しい（面白い）」という姿勢で取り組む

4 どんな状況にも適応する
（適者生存≠弱肉強食）

変化に敏感であり、過去の成功や失敗、習慣に囚われず、様々な状況でも適応する努力を続ける

5 適正な利益を確保する

われわれが責任を負う人々の期待に応えるため、且つ事業基盤の確立と将来の繁栄のためには適正な利益の確保が不可欠であることを認識する

SDGsへの取り組み

私たちにとって
「事業を継続すること」が
SDGsへの貢献と考えます

環境ビジネスに携わる私たちが見つめているのは社会の未来です。SDGs（持続可能な開発目標）をさらに明るく確かな未来をもたらすための過程と捉え、コーポレート・ガバナンス、人権・労働慣行、コミュニケーションの分野においてSDGsを踏まえた取り組みを行っています。



グッドホールディングスグループの取り組み

ダイバーシティ・働きがい



労働環境・安全・健康



脱炭素／資源循環・環境保全



社外活動／社内活動



受け継ぐ「五方よし」の精神と 未来への飽くなき挑戦 新体制のシナジーで 次世代の環境インフラを切り拓く

グッドホールディングス株式会社 代表取締役社長

赤澤 正人



受け継ぐ伝統と、未来への飽くなき挑戦

このたび、代表取締役社長に就任いたしました赤澤正人です。本レポートがみなさまのお手元に届き、ご覧いただく頃には、7月の新体制発足から数ヶ月が経過し、新しいグッドホールディングスグループとしての組織運営と未来への歩みが、すでに各現場において力強くスタートしております。

戦後間もない頃にオート三輪1台から始まった私たちの歴史、そして地道にごみ収集や廃棄物処理に向き合いながら地域の環境を守り抜いてきた先輩たちの足跡、さらには歴代の経営陣と従業員が血の通った努力で命を吹き込んだ「五方よし（売り手、買い手、世間、働き手、次世代未来）」の経営理念の重みを、いま改めて身の引き締まる思いで受け止めております。

私の社長としてのミッションは、この素晴らしい伝統と信頼をしっかりと受け継ぎながら、時代や社会の急速な変化に迅速かつ柔軟に対応した、新しい成長の形と確固たる基盤を創り出すことです。全従業員と同じ志を共有し、次世代へ続くより豊かな社会の実現に向けて、強い覚悟をもってグループの舵取りを進めていく決意です。

専門性を研ぎ澄まし、 お客様の「本当の課題」に応える

私たちは、グループが掲げるビジョン2050を羅針盤とし、単に目の前の廃棄物を処理するだけでなく、社会やお客様が抱える問題の奥底にある「本当の課題は何か」に向き合い、環境や社会に配慮した事業運営を愚直に推進してきました。

その象徴的な取り組みとして挙げられるのが、株式会社swell（スウェル）の分社化です。これまで株式会社リヴァックスの一部門として培ってきた特殊車両による設備清掃事業を独立させることで、その高い専門性をさらに尖らせ、お客様の多様な現場課題にスピーディかつ高度に応える体制を構築いたしました。

また、他の各事業会社においても、自治体による資源分別のルール変更への迅速な対応や、現場における徹底した安全管理、バックオフィスのデジタル化推進など、社会インフラを最前線で支えるエッセンシャルワーカーとしての使命感を一人ひとりが強く持ち、日々実直に目の前の課題に向き合い、確かな成果と信頼を積み上げてくれました。

6社体制のシナジーと、 社会から求められる役割の深化

廃棄物処理からリユース、遺品整理、人材派遣、バイオガス発電にいたるまで、環境ビジネスの多様な領域を網羅するポートフォリオを持つことこそが、当グループの最大の強みであり独自の価値です。新体制となった6社が、それぞれ独立したプロフェッショナルとして専門性を高めて切磋琢磨するとともに、グループとして緊密に連携し合う「グループシナジー」の創出が着実に進んでいます。この複合的なアプローチにより、従来の枠組みに捉われない新しいビジネスモデルや、お客様の潜在ニーズを先取りした提案型サービスの開発が各所で芽吹いています。

同時に、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言に基づく情報開示の拡充など、グローバルな基準に合致した取り組みを加速させてまいりました。しかし、企業が社会の役に立つことや、従業員、地域社会の幸福を追求することは、私たちにとって特別なことではなく、創業以来の「当たり前」の姿勢です。

深刻化する人手不足という構造的な課題に対しても、従業員一人ひとりの心身の健康と、日々の幸せを実感できることをすべての土台とし、働く人々が安心して長期的なキャリアを描き、物心両面で豊かになれる職場環境づくりへの投資を惜しみなく続けています。

「五方よし」のさらなる進化に向けて

私たちが何より大切にしているのは、受け継いできた精神をさらに高い次元へと進化させ、未来の社会に不可欠な環境インフラを創造していくことです。2026年度からの新しい体制においては、これまで築いてきた強固な組織基盤と人材の力を最大限に活かし、カーボンニュートラルへの具体的な貢献や、地域社会との共生をさらに一段と深めていく決意です。

現場で汗を流し、社会を足元から支えてくれている社員の誰もが誇りをもって働き続けられる環境をさらに一歩進め、常に「今ある私たちの姿」を自ら超えていく挑戦を止めることはありません。新しく生まれ変わったグッドホールディングスグループの未来にぜひご期待いただくとともに、ステークホルダーのみなさまにおかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ジーキャリア career Story

社会の「真の課題」を捉え、応えていく。 現場を知る大協だからこそできる、 エッセンシャルワーカー支援の新しいカタチ

2017年に産声をあげた株式会社大協の人材派遣事業「Gキャリア」。
ごみ収集や資源循環という、地域社会の維持に決して欠かすことのできない環境ビジネス業界に特化し、
独自の事前研修制度をもって人材をプロフェッショナルへと育成・輩出しています。
少子高齢化にともなう深刻な労働力不足という社会問題に直面する中、
なぜ自社でこの事業を立ち上げることになったのか。
これまでの足跡と、エッセンシャルワーカーの地位向上に懸ける未来への展望について、
平井社長に詳しく聞きました。

Profile

株式会社大協 代表取締役社長

平井 里美

新卒で入社後、経理業務に10年以上携わり、産休・育休を経て復帰。グループの人事・労務・採用・広報の管理責任者や監査業務を歴任。その後、人材派遣事業「Gキャリア」の責任者に就任。就任翌年には年成長率が200%超となり順調に成長。現職には2022年に就任。

— まず、「Gキャリア」という人材派遣事業を立ち上げた原点と、その背景にある想いについてお聞かせください。

当社は長年にわたり、地域のみなさまの暮らしを支える一般廃棄物および産業廃棄物の収集運搬事業をおこなっております。その中で、地元に貢献できる新しい事業の柱を創り出そうというプロジェクトが社内では立ち上がったのがきっかけで、人材派遣事業がスタートしました。当時、私たちが身を置く

CEO Vision

株式会社大協 平井里美社長インタビュー

環境ビジネスの現場では、深刻な人手不足、とりわけドライバーや作業スタッフの不足が社会問題として顕在化していました。ごみ収集や資源の循環は、市民生活や経済活動の基盤を支える命綱であり、一日たりとも止めることができない社会インフラです。にもかかわらず、深刻な労働力不足によって事業の継続そのものが危ぶまれる同業の事業者様のお声を多く耳にするようになりました。

この社会の「真の課題」をいち早く捉え、お困りの企業様をサポートするとともに、働く場所を求めている方々に安心して活躍できる環境を提供したいという想いが、Gキャリアの原点です。私たちの経営理念である「五方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし、^{てだい}手代よし、^{まご}孫子よし）」、そして当グループのコーポレートメッセージである「捉える、応える、超えていく」をまさに体現する事業になると確信し、大きな挑戦へと一歩を踏み出しました。

— 2017年の許可取得から、事業を軌道に乗せるまでには多くの苦労があったと伺っています。

2017年に一般労働者派遣事業の許可を取得したものの、当時は社内に人材派遣業の専門知識や実務経験をもつ者が誰一人としておらず、まさに完全な手探り状態からのスタートでした。私は経理や人事、労務といった主に管理部門で歩んできたため、新規事業の立ち上げという未知の領域に、大きな不安と期待を抱えながらの舵取りとなりました。最初の半年間は、派遣ス

タッフの稼働もわずかで、売上も思うように伸びず、法改正への対応や複雑な書類整備に追われる毎日でした。

しかし、そこで諦めることなく、採用手法を根本から見直し、地道な取り組みを積み重ねていきました。そして何より、数多ある派遣会社の中で「大協にしかできない強み」とは何かを突き詰めた結果、自社内での「事前研修制度」を導入することに行き着きました。また、お困りの企業様のニーズにも耳を傾け、応え続けた結果、廃棄物業界内での評判が口コミで広がり、同業他社様からの引き合いが急増していきました。おかげさまで、スタート当初から比較して、派遣スタッフの人数も増え、大きく成長を遂げることができました。

— 「Gキャリア」の特徴である事前研修制度について、具体的な強みを教えてください。

一般的な派遣会社様との違いは、私たち自身が日々現場でごみ収集の最前線に立って業務をこなしているという点です。廃棄物の収集運搬や選別の現場は、体力を要するだけでなく、一歩間違えば重大な事故や怪我に繋がりがねない高リスクな環境でもあります。現場の過酷さや、求められる安全基準を誰よりも熟知している自社の従業員が研修担当者となり、派遣スタッフの方々に対して実践的な教育を行います。

常日頃から従業員には安全を最優先にした作業をおこなうよう指示していますが、派遣スタッフへの教育も同

様に、何よりも安全第一であることを心掛けるようにしています。

業界未経験の方も多いので、各個人の体力面や理解度なども考慮しながら教育を行っています。

また、派遣先企業様から事前にヒアリングしたオーダー基準や当社が独自に定めた基準をクリアしたことを確認したうえで、初めて派遣先の現場へと送り出します。この取り組みによって、スタッフのみなさまの「未経験でも大丈夫だろうか」という不安を解消し、派遣先での早期離脱や怪我のリスクを減らすことができます。

— 今後の展望や、「Gキャリア」を通じて実現したいビジョンについてお聞かせください。

環境ビジネスにおけるブルーワークやエッセンシャルワークは、どれだけテクノロジーが進化しても、AIやロボットだけで完全に代替することは極めて難しい、人間の手による作業が必要とされる分野です。私たちはこれからも独自の強みをさらにブラッシュアップさせ、社会のインフラを足元から支えてくれているエッセンシャルワーカーの価値をもっと高めていきたいと考えています。

少子高齢化が進む中、人材不足はより加速していきます。私たちは、多様化する求職者のニーズをしっかりとキャッチアップして、働く一人ひとりが自分の仕事に誇りをもち、安心して長期的なキャリアを描いていける豊かな社会をめざして、これからも挑戦を続けてまいります。

社員インタビュー&クロストーク

求職者に寄り添い、企業を支える。 Gキャリアが描く、人と組織を幸せにする 成長のトライアングル



大隈 源希

業務部 許可担当 主任

現場でプロのドライバーとして活躍しながら、Gキャリア派遣スタッフの研修指導担当を兼任。2026年4月より主任としてメンバーの育成に注力。

小野坂 豪

キャリア事業部 課長

2022年11月入社。人材派遣領域で20年以上の豊富なキャリアを持ち、新規開拓と業界特化モデルの推進、マッチング業務を担う。

川本 淳也

キャリア事業部 派遣スタッフ

前職の過酷な労働環境から一転、家族との時間を大切にしながら安定して働ける環境を求め、廃棄物業界未経験でGキャリアに入職。事前研修を経て現場で活躍中。

廃棄物業界を中心としてエッセンシャルワーカーに特化した派遣事業として、多くの企業と求職者から絶大な信頼を寄せられている「Gキャリア」。

今回はその最前線で汗を流す3名に集まっていただきました。派遣先企業と求職者に寄り添う営業担当、現場でスタッフの安全と成長を支える教育担当、そして廃棄物業界未経験から派遣先企業で活躍を続ける現役派遣スタッフ。

それぞれの立場から、事業の魅力や現場のリアルな熱量、そしてこれからの未来について本音で語り合いました。

— まず、それぞれの視点から見た「Gキャリア」の最大の強みや差別化のポイントについて教えてください。

小野坂：営業という立場で多くの派遣先企業様と接する中で、圧倒的に評価していただいているのは、やはり「廃棄物業界に特化した事前研修制度」ですね。廃棄物を扱う現場は、怪我や事故の危険と常に隣り合わせの厳し

い環境です。一般的な派遣会社様であれば、登録してすぐに現場へ送り出すことが多いのですが、Gキャリアでは、大隈さんたち現場のプロフェッショナルが、安全基準や適性をしっかりと見極めたうえで送り出します。このワンクッションがあるからこそ、現場でのミスマッチや早期の離脱、予期せぬ労働災害を未然に防ぐことができ、派遣先企業様からの信頼に直結しています。

大隈：私は実際に車両に同乗して指導する立場ですが、研修ではまず場内でごみ収集の車両に乗ってもらい、安全な車両の乗り降りや正しい積み込み方法、移動時の動線といった基礎から学んでもらいます。その後、実際のごみ収集の現場へと段階的に進むカリキュラムを組んでいます。指導する際には、「なぜそのやり方だと危ないのか」という理由を、実体験をもとに丁寧に説明し、一人ひとりにしっかりと理解してもらうようにしています。挨拶や時間を守ることといった、前向きな姿勢さえあれば技術はいくらでも後からついてきます。スタッフの不安を自信に変えて現場へ送り出すことが、私たちのミッションです。

川本：私は全くの未経験からこの世界に飛び込んだので、入社前の不安は本当に大きかったです。前職では毎日深夜まで残業が続き、家族との時間が全く取れないことに悩んでいました。



生活を安定させたい、子どもや妻との時間を大切にしたいという思いで応募したものの、体力面や安全面で本当にやっていけるのか心配でした。ですが、大隈さんたちが付きっきりで教えてくださる研修のおかげで、一つひとつの作業の意味や安全な体の動かし方を納得できるまで学ぶことができ、現場に出る頃には「これなら自分にもできる、家族をしっかりと養っていける」という確かな手応えを感じることができました。

— 実際に現場で稼働が始まってから、どのような変化ややりがいを感じていらっしゃいますか。

川本：研修がとても実践的だったのと担当の小野坂さんからのフォロー面談もしていただいたので、派遣先の現場でも戸惑うことなくスムーズに業務に入ることができました。派遣先の方からも「大協の研修を受けてきたなら安心だね」と言っていただき、最初から本当に温かく受け入れてもらえました。夏の暑い時期や冬の凍えるような日など、確かに体力的につらい瞬間もありますが、1日のスケジュールを安全にやり終えたときの達成感は本当に格別です。何より、勤務時間がきっちりとしているため、毎日夕方には帰宅して家族と一緒に夜ご飯を食べられるようになり、生活の質が180度変わりました。この選択をして本当に間違い

はなかったと、日々実感しています。
大隈：川本さんのように、現場で生き生きと活躍している姿を見られることが、指導員として一番の喜びですね。ごみ収集という仕事は、地域のお客様から直接「いつも綺麗にしてくれてありがとう」「ご苦労様」と温かいお声をかけていただける機会が非常に多い仕事です。自分たちが地域のライフラインを最前線で支えているんだという誇りを、派遣スタッフのみなさまとも共有できる瞬間に非常にやりがいを感じます。

小野坂：私たちGキャリアの役割は、単に人を右から左へ動かすことではありません。求職者のみなさまのライフスタイルや人生の目標を実現してもらうことや企業様の課題解決や事業成長に貢献できることを考えています。最近では、40代や50代といったミドル・シニア層の方々が、これまでの人生経験を活かしてセカンドステージとして活躍されるケースも非常に増えています。

今後はさらなるエリア拡大を推し進めるとともに、より多くの求職者のみなさまに安心して長く働ける機会を提供していきたいと考えています。またGキャリアを通して新しい職場として廃棄物業界へチャレンジされる方をサポートすることで、エッセンシャルワーカーの価値をより高めていきたいと考えています。



株式会社リヴァックス

産業廃棄物の収集運搬・中間処理 食品リサイクル・バイオガス発電

設立50周年の節目を経て、次世代の資源循環インフラを築く



会社概要
資本金：81百万円
従業員：61名

代表取締役社長
畑井 浩希

事業の概要とそこに込めた思い
株式会社リヴァックスは、事業所から排出される有機性廃棄物をバイオマス資源へと100%リサイクルする食品リサイクル事業など、産業廃棄物の適正処理と再資源化に特化した事業を展開しています。廃棄物を単なる「ごみ」としてではなく、新たなエネルギーや肥料を生み出す「資源」として捉えることで、持続可能な社会の実現に貢献してきました。地球環境を守る静脈産業のトップランナーとして、お客様の廃棄物に関する課題に寄り添い、安全かつ最適な解決策を提案し続けることが私たちの使命です。

2025年度の振り返りと2026年度に向けて
2025年度は、swell事業部が分社化し、リヴァックス本体として「有機性廃棄物処理」と「食品リサイクル・バイオガス発電」に経営資源を集中させる大きな転換の年となりました。稼働から2年目を迎えたバイオガス発電プラントと、大規模修繕を経た乾燥処理プラントを融合した「リヴァックスモデル」の確立を進め、より難易度の高い廃棄物の受け入れにも挑戦しています。一部で直面した課題からも教訓を活かし、さらなる安全性の向上と安定稼働に向けた体制整備を強力に推し進めました。
2026年度は、これらの基盤をさらに強固なものにしつつ、新たな中間処理事業の立ち上げも視野に入れた次なる成長フェーズへと踏み出します。また、EcoVadis社から獲得した「シルバーメダル」の評価に甘んじることなく、グローバル基準のサステナビリティ経営をさらに進化させます。現場の「安全性」と従業員の「働きやすさ」を最優先とし、社会インフラとしての責任を果たしながら新たな価値を創造し続ける企業をめざします。

乾燥プラントにおける火災事故のお詫びと再発防止策の実装について

2025年7月に発生した乾燥プラント製品室での火災事故におきまして、お取引先様をはじめ、近隣の皆様、関係機関の皆様にご迷惑とご心配をおかけいたしましたことを、深くお詫び申し上げます。
本事故は、集塵ダクト内に堆積・固着した乾燥処理物が出火原因と特定されました。運転再開にあたり、オペレーション面の見直しとして、ダクト内の確認頻度の増加など、プラント点検手順の変更を直ちに実行いたしました。設備面では、2026年5月に製品室ダクト全ラインへの鉄皮温度計および自動散水装置の追加設置工事が完了し、計画していたすべての再発防止策を実装いたしました。
この度の事故を通じ、処理プロセスにおけるリスク管理の重要性を改めて認識いたしました。「油断をすれば同様の事故が起こり得る」という強い危機感を共有し、今後も安全かつ確実な廃棄物処理施設の運営に全社を挙げて取り組んでまいります。

TOPIC

未来の会社基盤を整える「サステナビリティ推進室」を新設

2025年4月1日、将来に向けた人材開発、脱炭素対応、職場環境改善、そしてDX推進を横断的に担う「サステナビリティ推進室」を立ち上げました。今すぐの成果にとどまらず、2030年のGHG削減目標への対応や既存事業の高度化など、次の世代へつながらず道筋を作るための未来投資を実直に進めています。

RMC(リバース・マネジメントセンター)をリニューアルいたしました

リサイクルの保管・前処理施設として利用していましたが、再資源化の高度化やお客様からの更なる要望に応えるため、分別強化を目的に土間スペースの拡大と食品粉碎機の導入を行いました。



リヴァックスの事業

産業廃棄物の総合リサイクル事業

「有機性廃棄物のバイオマス資源化事業」「食品リサイクル事業」「アライアンスネットワーク事業」「バイオガス発電事業」の4つの事業で、あらゆる産業廃棄物のリサイクルと資源循環化に取り組んでおります。

有機性廃棄物のバイオマス資源化事業

事業所から排出される活性汚泥や動植物性残さの有機性廃棄物については、自社プラントで乾燥処理を行い、バイオマス燃料や肥料といったバイオマス資源へと100%リサイクルを実現しています。



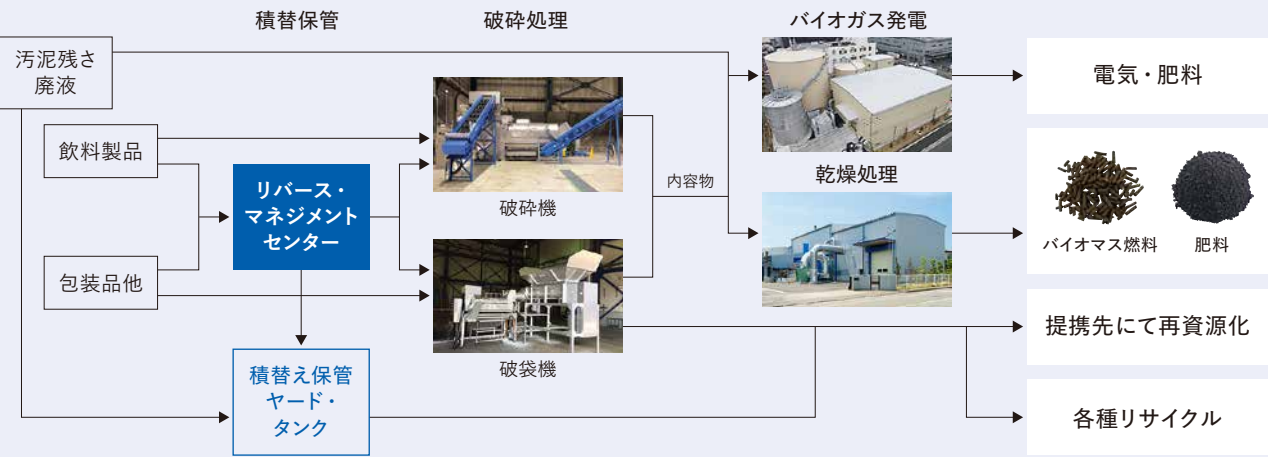
二酸化炭素排出を大幅削減するバイオマスボイラー

当社の「バイオマスボイラー」は、建築廃材を燃料としています。リサイクル施設を従来の都市ガスからバイオマス燃料にすることで、カーボンニュートラルなエネルギー利用に転換しました。また、廃棄物の貯留ピットと各処理工程から発生する高濃度臭気を、ボイラーの燃料用空気として利用し脱臭します。当社では、2016年度にこのバイオマスボイラーを導入したことで、年間二酸化炭素排出量を62%削減することができました。

食品リサイクル事業

期限切れや製造ロスによって生じた飲料製品や梱包された食品系産業廃棄物を、破砕処理と乾燥処理によりバイオマス資源へとリサイクルします。飲料系廃棄商品は、容器と内容物の100%リサイクルを実現しています。

リヴァックスのリサイクルシステム



アライアンスネットワーク事業

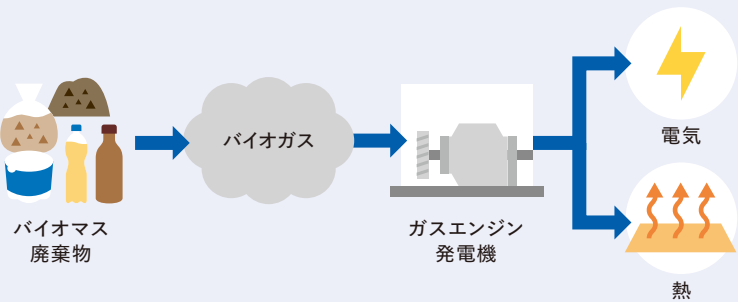
産業廃棄物は業者によって扱う廃棄物が変わりますが、当社では長年培ってきたノウハウと提携業者などのネットワークを担って、薬品、廃材などあらゆる廃棄物の処理・リサイクルのニーズにワンストップで対応しております。

汚泥	動植物性残さ	廃酸	廃アルカリ	飲料廃棄物
廃プラスチック類	金属くず	木くず	もえがら	ばいじん
最適な処理方法をご提案				
飼料化	肥料化	燃料化	など	
セメント原料化	埋立	焼却	各提携先企業	

バイオガス発電事業



京阪神エリアで最大級の「西宮バイオガス発電プラント」では、産業廃棄物である排水処理汚泥や食品残さを原料にバイオガス発電を行い、発電した電気はFITを利用して売電しています。食品工場から排出される食品廃棄物は、そのほとんどが飼料化や堆肥化によって再利用されています。しかし近年では、CO₂削減や再生可能エネルギー利用としての需要増加等の観点から、食品廃棄物のバイオガス化がさらに注目されています。



西宮バイオガス発電プラント 2025年度発電量実績	
発電量	2475.13 MWh
発電電力量 一般家庭	687 世帯分 (1世帯300kWh/月として)

STAFF INTERVIEW



手作業の確実な仕分けが地球環境を守る第一歩

小早川 一文 処理センター 物流加工課 2007年3月入社

処理センターの前工程で、搬入された飲料や食品廃棄物の仕分け・処理を担当しています。入社当初は目の前の作業をこなすだけでしたが、今は「自分たちの確実な一手間が後工程の機械トラブルを防ぎ、資源循環に直結している」という強い誇りを持っています。機械では見落とすような異物も“手開け”で丁寧に取り除き、純度の高い資源として次工程へつなぐところ私たちの介在価値です。今後は作業工程を精査し、自動化できる部分は積極的に機械化を進めます。そのうえで熟練した人の目による品質管理と組み合わせることで、現場の安全性と処理品質をより一層高めていきます。どれほど難易度の高い廃棄物にも決して「ノー」と言わず、確実に受け入れられる体制づくりに貢献してまいります。

現場と事務の架け橋となり、新たな事業を牽引する

鶴岡 祐哉 サステナビリティ推進室 2019年4月入社

新設されたサステナビリティ推進室において、DX化の推進や部署間の調整役を担い、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。過酷な現場作業の負担を少しでも軽減し、安全性を高めることが私たちのミッションです。2026年4月からは主任へと昇進し、新規事業である加圧浮上処理の立ち上げ準備として、管理体制の構築や運用手順の整備、関係官庁への手続きなども並行して進めています。社内は真面目で静かな雰囲気があるため、私自身がコミュニケーションのハブとなり、現場と事務所の垣根を越えた活発な意見交換ができるような組織風土をつくりたいと考えています。部署間の連携を深めることで、会社全体のベクトルを一つにまとめ、新たな事業成長やサステナビリティの取り組みを力強くサポートしていきます。



環境負荷低減の取り組み

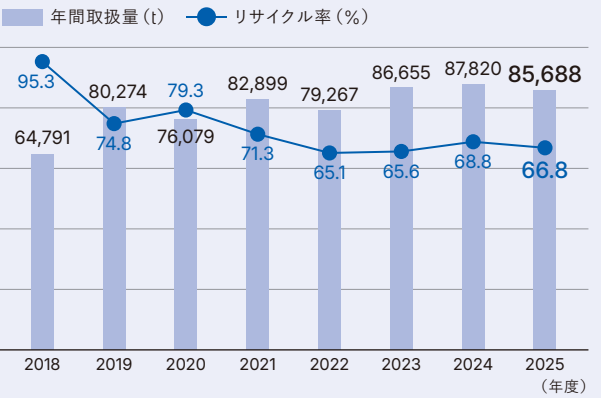
産業廃棄物のリサイクル率

より質の高いリサイクルをめざしています

2025年度のリサイクル率は66.8%でした。
引き続き、お客様のリサイクルニーズへの対応、循環型社会の実現、埋め立て処分地の延命に貢献してまいります。

※リサイクル率は年間取扱量のうちリサイクル処理への仕向量の占める割合を表します。
※2018年度まではサーマルリサイクル(焼却)をリサイクル扱いとしていましたが、2019年度よりリサイクルカウントから除外しています。

リヴァックスの産業廃棄物の年間取扱量とリサイクル率



リヴァックスの対応可能な廃棄物処理

メタン発酵 処理施設	処理能力 67.82t/日	対応品目※1 5種	・汚泥・廃油 ・廃酸・廃アルカリ ・動植物性残さ
乾燥 処理施設	処理能力 90.9m/日	対応品目※1 5種	・汚泥・廃油 ・廃酸・廃アルカリ ・動植物性残さ
破碎 処理施設	処理能力 64.8t/日	対応品目 3種	・廃プラスチック類・金属くず ・ガラスくず、コンクリートくず、 陶磁器くず
粉碎 処理施設	処理能力 186.56t/日	対応品目 2種	・動植物性残さ ・汚泥

※1 いずれも有機性のものに限り

悪臭防止対策

各種対策で、
規制値を厳守しています

破碎・積替保管棟には、活性炭式の脱臭装置を4箇所設置、汚泥や動植物性残さの保管ヤードにはシャッターを取り付け、廃棄物の搬出入以外には閉鎖しています。乾燥施設から発生する高濃度臭気はバイオマスボイラーの燃焼室内で燃焼脱臭を行い、低濃度臭気には臭気を薬剤で中和脱臭させる薬液洗浄装置を設置しています。西宮市との環境保全協定に基づく臭気測定の結果は、2025年度もすべて規制値内でした。(P20参照)

水質汚濁防止対策

定期的に水質を分析、
適正管理しています

廃棄物処理工程において発生する排水は、全量を排水処理施設で処理した後に下水道へ放流しています。連続監視式のpH計を設置し、排水処理施設の水質を定期的に分析しています。法律より厳しい自主基準値を設定し、月1回の管轄行政による排水水質検査に合わせた自主検査を実施するなど、未然防止に努めています。(P20参照)

廃棄物の漏洩・流出防止対策

漏洩・流出防止を
徹底しています

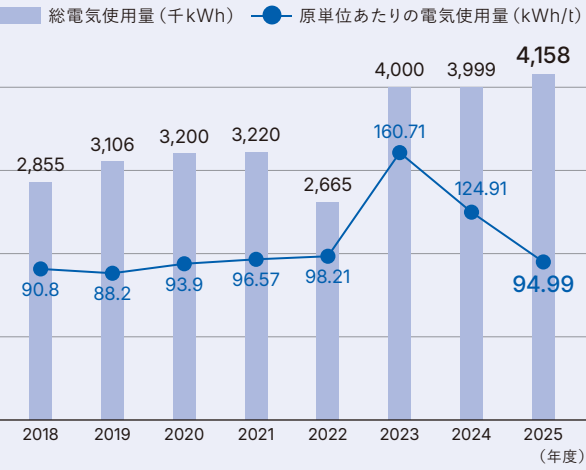
リバースマネジメントセンターでは、容器入り廃棄飲料の荷崩れや開梱作業などで飲料がこぼれた場合でも漏洩しないよう、倉庫外周に側溝および8㎡の溜め枡を設けています。さらに、含水率の高い廃棄物を収集運搬する際には漏洩防止のためゴムパッキン付き水密コンテナを使用しています。

処理センターのエネルギー使用量

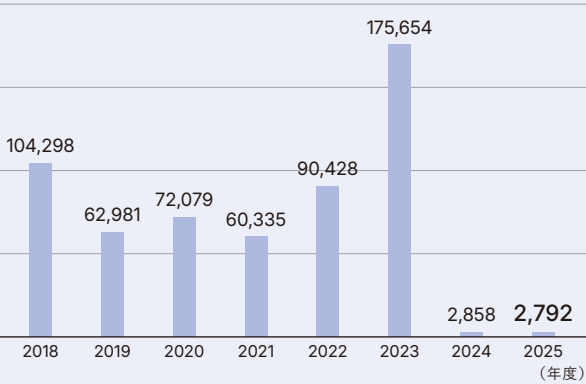
省エネルギー対策に努めています

リヴァックスの処理センター(破碎・乾燥・メタン発酵施設)では、電気・都市ガスのエネルギーを使用しています。
今後もプラント安定稼働を維持しながらエネルギーの削減に努めてまいります。

処理センターの電気使用量

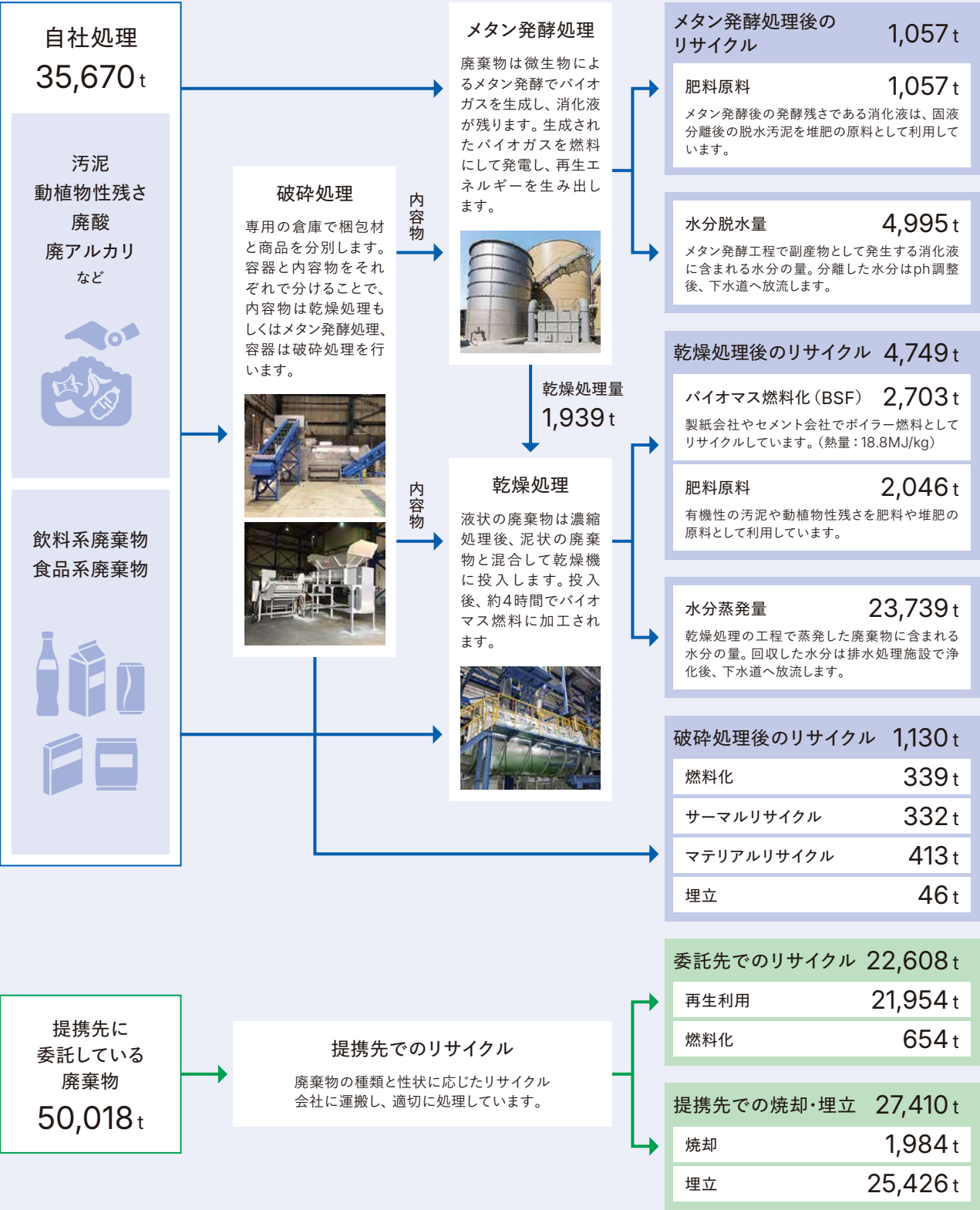


処理センターの都市ガス使用量 (㎡)



産業廃棄物処理フロー

2025年度にリヴァックスが取り扱った産業廃棄物の処理の流れは次のとおりです。
廃棄物の品目や性状に合わせて適切に処理しています。



環境測定結果

臭気測定結果		乾燥（2025年10月1日実施）					メタン（2025年10月2日実施）			
悪臭物質名	単位	規制基準	北側	東側	南側	西側	北側	東側	南側	西側
アンモニア	ppm	1	0.09	<0.05	<0.05	0.10	0.09	<0.05	0.06	0.09
メチルメルカプタン	ppm	0.002	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化水素	ppm	0.02	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化メチル	ppm	0.01	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	ppm	0.009	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリメチルアミン	ppm	0.005	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
アセトアルデヒド	ppm	0.05	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
プロピオンアルデヒド	ppm	0.05	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
ノルマルブチルアルデヒド	ppm	0.009	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソブチルアルデヒド	ppm	0.02	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルパレルアルデヒド	ppm	0.009	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソパレルアルデヒド	ppm	0.003	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004
イソブタノール	ppm	0.9	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
酢酸エチル	ppm	3	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
メチルイソブチルケトン	ppm	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
トルエン	ppm	10	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
スチレン	ppm	0.4	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	ppm	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
プロピオン酸	ppm	0.03	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル酪酸	ppm	0.001	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	ppm	0.0009	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	ppm	0.001	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
臭気濃度（敷地境界）	－	30	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10

大気汚染物質測定結果		乾燥（2025年11月21日、2026年3月2日実施）			メタン（2025年10月2日、2026年3月2日実施）			
測定項目	単位	規制基準	1回目	2回目	規制基準	1回目	2回目	
窒素酸化物（NOx）	排出基準	ppm	350	54	52	600	380	450
	時間あたり排出量	㎎/N	0.53	0.4	0.42	－	－	－
	年間排出量	トン	8.5	6.4	6.8	－	－	－
硫化酸化物（SOx）	排出基準	ppm	－	5	23	－	－	－
	K値規制	㎎/N/h	1回目1.45/2回目1.65	0.038	0.219	1回目0.181/2回目0.190	<0.001	<0.001
	総量規制	㎎/N	0.381	0.047	0.31	0.137	<0.001	<0.001
ばいじん	排出基準	g/㎎/N	0.2	<0.001	<0.001	0.05	<0.001	<0.001

測定項目	単位	規制基準	乾燥（2025年6月実施）	メタン（2025年7月実施）
水温	℃	45.0未満	基準値内（平均 43.2）	基準値内（平均 31.1）
pH	-	5.0 ～ 9.0未満	基準値内（平均 7.31）	基準値内（平均 8.33）
BOD	mg/ℓ	3,000未満	340	246
SS	mg/ℓ	2,000未満	9	98
カドミウム	mg/ℓ	0.03以下	<0.01	<0.01
シアン	mg/ℓ	0.7以下	<0.01	<0.01
有機リン	mg/ℓ	0.7以下	<0.01	<0.01
鉛	mg/ℓ	0.1以下	<0.01	<0.01
六価クロム	mg/ℓ	0.35以下	<0.02	<0.02
ヒ素	mg/ℓ	0.1以下	<0.01	<0.01
水銀	mg/ℓ	0.005以下	<0.0005	<0.0005
アルキル水銀	mg/ℓ	検出されないこと	検出されず	検出されず
ポリ塩化ビフェニル	mg/ℓ	0.003以下	<0.0005	<0.0025
トリクロロエチレン	mg/ℓ	0.1以下	<0.003	<0.003
テトラクロロエチレン	mg/ℓ	0.1以下	<0.0005	<0.0005
ジクロロメタン	mg/ℓ	0.2以下	<0.002	<0.002
四塩化炭素	mg/ℓ	0.02以下	<0.0002	<0.0002
1,2ジクロロエタン	mg/ℓ	0.04以下	<0.0004	<0.0004
1,1ジクロロエチレン	mg/ℓ	1以下	<0.002	<0.002
シス1,2ジクロロエチレン	mg/ℓ	0.4以下	<0.004	<0.004
1,1,1トリクロロエタン	mg/ℓ	3以下	<0.0005	<0.0005
1,1,2トリクロロエタン	mg/ℓ	0.06以下	<0.0006	<0.0006
1,3ジクロロプロペン	mg/ℓ	0.02以下	<0.0002	<0.0002
チウラム	mg/ℓ	0.06以下	<0.006	<0.03
シマジン	mg/ℓ	0.03以下	<0.0003	<0.015
チオベンカルブ	mg/ℓ	0.2以下	<0.002	<0.002
ベンゼン	mg/ℓ	0.1以下	<0.001	<0.001
セレン	mg/ℓ	0.1以下	<0.01	<0.01
ハウ素	mg/ℓ	10以下	<0.1	0.3
フッ素	mg/ℓ	8以下	<0.2	<0.2
1,4ジオキサン	mg/ℓ	0.5以下	<0.05	<0.05
ダイオキシン	pg-TEQ/ℓ	10以下	0.00034	0.0012

株式会社swell

排水処理施設などのプラント設備清掃

産業廃棄物の収集運搬

特殊車両と高度な技術力で、日本の環境インフラを最前線で守り抜く



会社概要

資本金：10百万円
従業員：21名

代表取締役社長
稲富 啓介



事業の概要とそこに込めた思い

株式会社swellは、国内最大級の超強力吸引車や粉体専用のマルチ吸引車などの特殊車両を駆使し、工場内の排水処理施設や配管などの設備清掃サービスを展開しています。従来の人海戦術では困難で危険をとまなう現場課題に対し、圧倒的な吸引力と高圧洗浄技術により「低コスト・短工期・高安全性」を実現します。お客様のモノづくりを根底から支え、設備トラブルによる環境汚染を未然に防ぐ「究極の安全」を提供することが使命です。

2025年度の振り返りと2026年度に向けて

2025年4月に分社化し、新たな独立企業としてスタートした本年度は、前半こそ人員不足などの影響で苦戦したものの、後半には見事な巻き返しを見せました。独自の特殊車両の優位性を活かし、製鉄所やプラント工場での大口案件や突発的なトラブル対応を確実に行うことで、お客様から「困ったらずswellに」と頼られる存在へと着実に成長しています。従業員一人ひとりが高い対応力を発揮したことは組織の大きな自信に繋がりました。

2026年度は、この勢いをさらに加速させ、「3年以内に全国展開、5年以内に海外進出」という大きなビジョンに向けた本格的な助走を開始します。そのために営業力の強化と現場の技術継承を同時に進め、単なる「汚れを落とす会社」から「工場設備の改善提案まで行えるコンサルティング企業」へとサービスの質を上げます。従業員への待遇改善や働きやすい環境づくりも推し進め、社会インフラ保全の責任を果たしていきます。

swellの事業

設備清掃事業

工場内インフラに特化したswell事業

工場の排水処理施設や配管、タンクといった工場内設備に特化した清掃サービスを提供しています。顧客ニーズの中でも「特に技術的に難しく未だ実現されていない課題」に対して高機能な吸引車と洗浄車の技術力で応えすること、そして顧客の現場に合ったより良い清掃サービスを企画提案し、「コスト面、効率面での改善に貢献すること」を強みに事業展開しています。技術力と提案力で、工場の環境インフラの機能維持に貢献します。

超強力吸引車であらゆる清掃を可能に

国内最大級の超強力吸引車など特殊車両を保有しており、その圧倒的な性能で清掃作業時間の短縮や作業内容の改善を実現しています。「深い地下からの吸引」「レンガ屑など大きな塊の吸引」など、これまで不可能であった作業が可能になり、あらゆる現場のニーズにお応えします。

マルチ吸引車で低コスト・短納期を実現

マルチ吸引車は、粉体専用の特殊車両です。これまで複数台で対応していた、粉体の「吸引・圧送」「容器詰め」「粉体輸送」といった3つの作業を車両一台で行うことができる、まさに一台三役の車両です。吸引した粉体は再利用や廃棄も可能で、作業の手間と時間を大きく削減します。



「提案×高いサービス品質×法令遵守」で安心のサポートシステムを構築

1 提案

顧客（製造工場・プラント工場・排水系作業現場）に低コスト・工程短縮などを提案

2 作業

他では困難な作業（高揚程・高比重）を含め、排水処理施設や配管、側溝などの堆積物の清掃を吸引車と高圧洗浄車でサポート（設備の機能回復）

3 アフターサポート

清掃時に回収した産業廃棄物処理を適正に行い、法令に基づいた産業廃棄物管理表（マニフェスト）の返却、次回作業の提案

swell 6つの特徴

1 作業時間短縮と廃棄物量抑制によりコスト削減が可能

高機能な機材と経験豊富なプロの作業により、車両台数・工数・廃棄物を抑制し、低コストを実現いたします。

2 超強力吸引車使用により短期間での作業が可能

当社の超強力吸引車は、一般的な吸引車と比較し吸引力が3倍以上となります。強力な吸引力を活用した作業で短納期が可能です。

3 「ISO45001」取得安全作業に自信があります

4 提携先が豊富だから大規模作業にも対応可能

5 清掃から廃棄物処理までワンストップ対応

6 調査後はレポートを提出無料で配管内調査

STAFF INTERVIEW



圧倒的な機動力で現場を綺麗にし、お客様の笑顔を創る

前中 優真 環境整備部 業務課 2025年3月入社

前職は運送業で大型トラックの運転手をしていましたが、一人ではなくチームで協力して取り組む仕事に魅力を感じ、入社しました。現在は日本に数台しかないマルチ吸引車などの特殊車両を操作し、他社では対応が難しい過酷な現場の清掃を担当しています。通常の3倍の吸引力をもつ機材を駆使して工期を大幅に短縮できるため、現場が見違えるように綺麗になり、お客様から直接「ありがとう」と感謝の言葉をいただける瞬間が最大のやりがいです。工期短縮はお客様に安心感を提供するだけでなく、協力会社のみなさまを含めた現場全体の安全にもつながります。年齢や社歴にかかわらずフラットに意見を言い合える風通しのよい環境の中で、今後はリーダーとしての自覚をもち、後輩への丁寧な指導など組織の底上げにより貢献していきたいです。

単なる清掃にとどまらない、本質的な課題解決を提案

久保 俊雄 環境整備部 営業課 2025年8月入社

金融や物流業界などで培った経験を活かし、2025年8月に営業として入社しました。現在は「汚れたから呼ぶ」清掃業者ではなく、「困ったから相談する」パートナーとしてお客様と信頼関係を築くことをめざしています。工場設備におけるトラブルに対し、単なる清掃の提案にとどまらず、根本的な改善策まで助言できるコンサルティング要素を備えた営業が私の目標です。当社は年齢や社歴にかかわらず、フラットに意見を交わせる風通しのよい社風が根付いています。「困ったらすぐ俺のところに来て」と背中を押してくれる先輩にも恵まれ、失敗を恐れず積極的に行動できる環境です。今後の展望としては、自己成長を続け、関東や海外など新しいエリアへ進出する際に真っ先に声がかかるような、新規開拓の先陣を切る存在になりたいと考えています。



株式会社リリーフ

おかたづけサービス

リユースサービス

お客様の心に寄り添い、モノの循環を通じて持続可能な社会を創る



会社概要

資本金：50百万円
従業員：65名

代表取締役社長
赤澤 知宣

事業の概要とそこに込めた思い

株式会社リリーフは、単なる不用品の回収にとどまらない「おかたづけ事業」と「リユース事業」を展開しています。高齢化にともなう遺品整理や生前整理など、お客様の人生の節目において生じる精神的・体力的な負担を和らげることを使命とし、生前整理セミナーや合同慰霊祭の開催も行っています。また、回収した不用品を東南アジアなどで再利用する海外リユース事業といったグローバルな社会貢献にも積極的に取り組んでいます。

2025年度の振り返りと2026年度に向けて

2025年度は、社会課題の解決を起点とした「おかたづけ事業」がさらなる成長を遂げ、未整理な市場においても高いサービス品質で信頼を獲得し続けることができました。特に、今年度のストレスチェックにおいて「ストレスフリーカンパニー」に認定されるなど、精神的・体力的な負担が大きい業務でありながらも、従業員が安心して長く働ける健康的な職場環境の整備に成果が表れた1年でした。

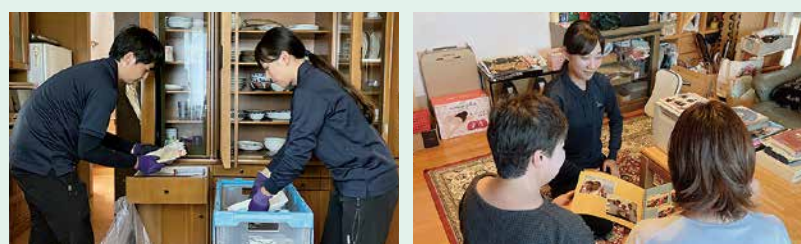
2026年度は、この強固な組織基盤をベースに、リユース事業と連携した多角的なサービス展開を加速させます。お客様の隠れた「困りごと」を引き出し、グループ各社とのシナジーを活かしたトータルサポートを提供することで、競合他社との差別化をさらに明確にしていきます。同時に、従業員一人ひとりが「お客様の心に寄り添う」という理念を体現できるよう教育体制を充実させ、国内外の社会課題解決と事業成長を両立させる「五方よし」の経営を牽引してまいります。

リリーフの事業

おかたづけ事業

お客様とコミュニケーションを密にし、様々なオプション作業にも対応できる体制を作ることで、安心してご利用いただけるよう配慮したサービス体制を構築しています。2026年3月末時点では、1年で7,500件超のお家を整理しました。

当社の「おかたづけ」は、単にモノを「処分する」のではなく、専門知識を持つスタッフがごみと資源に分別し、ごみを減らすことで環境負荷の軽減につながります。また、「おかたづけ」で回収した不用品を処分ではなくリユースすることでも大きな特徴です。お客様にとっては大事な家財をリユースすることでも心の負担が減るだけでなく、処分にかかる金銭的な負担の軽減にもつながっており、リユース比率向上も重要なテーマと捉えています。



全国にフランチャイズ展開

西宮市をはじめ東京の2拠点を中心に事業を行っており、2026年3月末時点で全国32店舗を展開しています。

法人のお客様との連携も強化

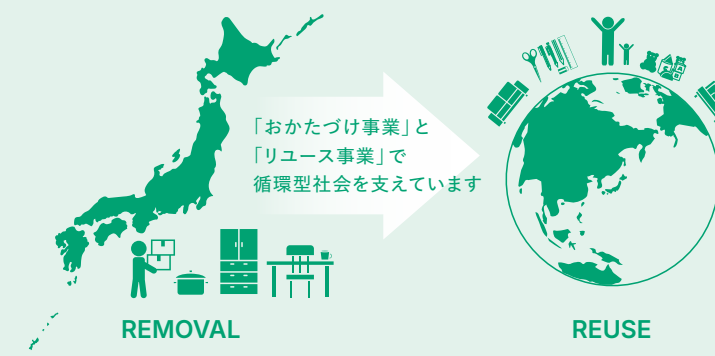
自社にてコールセンターの設置および、法人専用の担当を設置し、提携先様とスムーズな連携が行えるよう体制を整えています。管理体制を整えガバナンス強化に努めることで提携数は延べ500社を超えます。

リユース事業

まだ使うことができる不用品を再利用する仕組みとして「おかたづけ事業」と両輪で取り組んでいるのが「リユース事業」です。

アジアでは日本の中古品が「Used in Japan」として人気があります。当社は、自社で倉庫機能、営業機能を持っており、環境変化にもすぐ対応できる体制が強みです。どこでどんなものが求められているのかを把握した上で「不用品なものを求められる場所へ」きちんと仕分けし、輸出をしています。

現在、東南アジアを中心に年間160本程度コンテナを届けており、約1,400トン程の廃棄物量削減につながっています。リユース事業の仕組みは循環型社会への貢献となり、私たちの経営理念でもある「五方よし」を体現したビジネスモデルを構築しています。



TOPIC

想いを繋ぐ「古美術 五彩」

当社が運営する骨董品・美術品の鑑定、相談ブランドである「古美術 五彩」は、グループの経営理念である「五方よし」の精神を大切にしています。私たちは単なる買取にとどまらず、貴重な歴史や文化、所有者の想いが詰まった品々を丁寧に扱い、次の世代へ繋ぐことでリユースによる廃棄物の削減だけでなく、文化の継承にも力を入れております。



数々の公的認証が物語る信頼の蓄積

当社グループでは、事業活動の透明性と信頼性を高めるため、多様な公的認証・免許・許可を積極的に取得。2026年3月現在、その数は26にのぼります。「健康経営優良法人2026」をはじめ、「ひょうご産業SDGs認証事業」や「ひょうご仕事と生活の調和推進企業認定」など、第三者からの客観的な評価を真摯に受け止め、これらの評価に甘んじることなく、多様な人材が能力を発揮できる安心で働きやすい環境づくりと、お客様へのよりよいサービスの提供に取り組んでまいります。

品質の平準化を図る「遺品整理マイスター制度」の推進

高齢化により遺品整理のニーズが高まる中、業界全体の品質向上をめざし、独自の社内認定制度「遺品整理マイスター」を導入しました。専門知識や関連法規、現場スキル、接客、接客技術などを三段階に分類。厳格な基準を満たしたプロフェッショナルを育成することで、お客様のさまざまなご要望やご依頼いただいた背景に真摯に寄り添います。私たちはこの制度を通じ、業界のリーディングカンパニーとして先頭に立ち、深刻化する空き家問題や資源循環などの社会課題の解決に貢献し、「ありがとう」が溢れる社会をめざしてまいります。





社員の挑戦と成長を称え合い、組織のベクトルを一つにする「社員総会」

株式会社リリーフでは、経営方針や未来のビジョンを全社で共有し、組織のベクトルを一つにするための最重要イベントとして「社員総会」を定期的に開催しています。第3回を迎えた2025年度の総会は、リリーフの歴史において大きな転換点となる特別な開催となりました。その最大の理由は、過去2回にわたって大きな課題となっていた「拠点間における参加体験の格差」を解消し、初めて全国の拠点で働くすべての従業員が関西の同一会場に集結する「完全対面方式」を実現したことにあります。

これまでは、関西圏のスタッフが会場に集まる一方で、関東拠点のスタッフは画面越しのリモート参加を余儀なくされていました。そのため、経営方針の発表や年間表彰といった感動的な場面でも、どうしても画面の向こう側との温度差が生じてしまい、全社的な一体感や参加実感を全員が等しく得ることが難しい状況が続いていました。特に、日頃から現場で汗を流すエッセンシャルワーカーのメンバーに対して「同じ空間で熱量をもって感謝を伝え、称え合いたい」という想いが、運営事務局の強い原動力となりました。

この完全対面開催の実現には、バックオフィスを担う管理課と、各拠点を率いる部門長との緊密な連携が不可欠でした。365日動いている現場のシフトに影響を出さずに全国からメンバーを集めることは容易ではなく、綿密なスケ

ジュール調整や遠方からの移動・宿泊手配など、何ヶ月も前から入念な準備と調整が続けられました。その結果、当日は奇跡的とも言える「欠席者ゼロ」を達成し、全員がリアルに顔を合わせる理想的な環境が整いました。

総会当日は、単なる方針の伝達にとどまらず、各部門が社長の掲げるビジョンに対してどのようにコミットしていくかを示す、非常に質の高いプレゼンテーションが次々と繰り広げられました。それぞれが自発的に準備を重ねた発表は全従業員の胸を打ち、組織としての進むべき道がより強固に浸透する時間となりました。さらに、総会の大きな目玉である年間表彰（アワード）では、社長賞やクチコミ賞、部門賞の授与が行われました。単なる業績の数字だけでなく、日頃の仕事に向き合う姿勢や、お客様に寄り添う実直な取り組みそのものを称える表彰は、受賞者のみならず、会場にいる全員のモチベーションを大きく刺激しました。

日頃は離れた拠点でそれぞれの任務に就いているメンバーたちが、直接言葉を交わし、互いの健闘を称え合いました。部署や地域の垣根を越えてコミュニケーションを深めたことで、全社の一体感はいまだかつてないほど飛躍的に高まりました。この総会を通じて生まれた強固な組織の力を活かし、リリーフはこれからもお客様に寄り添い、地域社会によりよいサービスを届けるための挑戦を続けてまいります。

STAFF INTERVIEW

運営担当者の声

バックオフィスから現場を支え、働きやすい環境をめざす

淵上 弥生 管理課 課長

社員総会は、全国のメンバーがリアルに顔を合わせ、部署の垣根を越えてコミュニケーションを深める貴重な機会です。運営側として最も大切にしているのは、全員が一体感と誇りをもてる場を創ることです。管理課の役割は単なる事務処理ではありません。現場のスタッフが目の前の作業に集中し、お客様に最高のサービスをお届けできる環境を整えることが私たちのミッションです。これからも総会などの取り組みを通じて、多様な人材が安心して働き続けられる、よりよい職場環境づくりをめざしてまいります。



2025年度 年間表彰

株式会社リリーフでは、日々の業務の中で常にお客様の心に寄り添い、多大な成果を挙げた従業員を称えるため、社員総会において「年間表彰（アワード）」を実施しています。この制度は、単なる業績の数字や結果だけを評価するものではありません。現場で汗を流す一人ひとりの仕事に向き合う真摯な姿勢や、お客様に対する実直な取り組みそのものを全社で共有し、互いに称え合うことを最大の目的としています。

今年度の表彰は、事業を通じたお客様への価値提供という本来の軸により強くフォーカスし、全社員が進むべきベクトルを一つにするための明確な評価軸を設定しました。具体的には、全社で最も顕著な活躍を見せ、経営ビジョンの実現を力強く牽引した従業員に贈られる「社長賞」、売上や構成比など明確な数値基準に基づいて各部門で最も高い成果を挙げた「部門賞」、そして、お客様からの温かい感謝の言葉の証であるGoogleクチコミ獲得数において東西トップを獲得した従業員を表彰する「クチコミ賞」の3つの賞を選出しています。



これらの明確で納得感のある表彰は、受賞者本人の誇りとなることはもちろんのこと、ともに働く仲間たちのモチベーションを大きく刺激しています。「自分もあの舞台に立ちたい」「お客様にもっと喜んでいただきたい」という前向きなエネルギーが連鎖し、組織全体が活気づいています。リリーフはこれからも、従業員一人ひとりの自発的な成長と挑戦を力強く後押しし、チーム一丸となってお客様によりよいサービスをお届けしてまいります。

STAFF INTERVIEW

表彰者インタビュー

社長賞の誇りを胸に、新たな業種との連携に挑む

藤野 浩一 アライアンス推進部（マーケティング兼フランチャイズSV） 2024年11月入社 **社長賞**

アライアンス推進部にて提携先開拓を担当し、2025年度の「社長賞」をいただくことができました。これまでは不動産業界を中心に関係構築に努めてまいりましたが、現状に満足することなく、今後は金融機関や土業といった新たな業種との連携強化に挑戦します。業種や企業によって、当社のおかたづけサービスが必要とされるシーンや潜在的なニーズは大きく異なります。それぞれのお客様に最適なアプローチや解決策を提案できるよう、自身の引き出しを増やしていくことが今年の大きなテーマです。周囲からの期待を成長への力に変え、リリーフならではの価値をさらに広く社会へ提供することで、国内外の資源循環と社会貢献の輪を広げたいと思います。



細やかな気配りで、お客様の心の負担を和らげる

大塚 淳司 業務部 関東事業所 2025年5月入社 **クチコミ賞**

密かに狙っていた「クチコミ賞」を受賞いたしました。入社後最短期間での受賞ということで、達成感と同時に周りの皆さんとお客様への感謝を実感しています。月5件の口コミ獲得を目標に掲げ、先輩の背中を追うという強い思いが日々のモチベーションに繋がりました。遺品整理や生前整理のおかたづけ現場は、お客様にとって精神的にも体力的にも負担が非常に大きい場面です。だからこそ、現場での丁寧なコミュニケーションと確実な作業品質を通じて、少しでもご遺族の心に寄り添い、不安を和らげることができるよう努めています。作業後にお客様からいただく温かい感謝の言葉や口コミが、何よりのやりがいと励みです。今後も明確な目標をもち、高い志を持った仲間たちと切磋琢磨しながら、関東事業所全体をさらに盛り上げ、よりよいサービスの提供に努めてまいります。



株式会社ダイキョウクリーン

グリストラップ清掃

飲食業界の労働環境改善と、地域の水質保全を最前線で担う



会社概要

資本金：80百万円
従業員：62名

代表取締役社長
津田 政房



事業の概要とそこに込めた思い

株式会社ダイキョウクリーンは、飲食店や商業施設のグリストラップ清掃および排水管の高圧洗浄に特化した事業を展開しています。専用のバキューム車や高圧洗浄機を駆使して、悪臭や配管の詰まりといったトラブルを未然に防ぎます。私たちが提供するサービスは、単なる清掃にとどまらず、人手不足に悩む飲食業界の労働環境改善や、不適切な処理による水質汚染を防ぐという、地域社会にとって極めて重要な「衛生インフラ」としての役割を担っています。

2025年度の振り返りと2026年度に向けて

2025年度は、これまで培ってきた現場の「真面目で確実な作業品質」を維持しながら、さらなる組織の進化に向けた布石を打った1年でした。従業員がどこに行っても通用するような人材へと成長できるよう、専門的な技術だけでなく「会社とは何か、働く意義とは何か」といった本質的な教育にも注力しました。また、オフィス部門ではAIを活用した見積もり作成や伝票管理の効率化を推進し、組織全体の生産性向上を図りました。

2026年度は、従来の受け身の営業スタイルから脱却し、コンサルティング要素を取り入れた「提案型営業」への本格的な転換を図ります。新規商品や潜在ニーズの開拓を進め、お客様の店舗運営における衛生面のトータルサポートを実現します。また、従業員に対しては適性に合わせた配置転換や新たなキャリアパスの整備を行い、誰もが長く安心して働ける、多様性と成長の機会に満ちた組織づくりを推進していきます。

ダイキョウクリーンの事業

グリストラップ清掃

グリストラップとは、業務用の厨房から出た污水の中から野菜くずや残飯を金網状のバスケットで集め、グリース（油）が下水に流出するのをトラップする（止める）装置です。グリストラップの汚れを定期的に取り除くことで、悪臭や害虫の発生の防止、衛生環境の改善や水質汚染の防止、排出される汚泥の低減に貢献します。



排水管清掃・詰まり解消

排水管の詰まりは、近隣施設への被害や営業のストップ、損害賠償などさまざまなリスクを引き起こします。専用の高圧洗浄車やポータブル洗浄機を保有し、定期清掃や万が一の際の排水管の清掃にも対応しています。

貯水槽・排水槽清掃

ビル、商業施設の貯水槽や地下、工場等に設置されている各排水槽（雨水槽、湧水槽、雑排水槽）の清掃や汚泥（産業廃棄物）の処理を承っております。有資格者による作業を行い、安全の確認・維持を徹底しています。

施設の衛生管理

ビル、商業設備などのダクト清掃、店内清掃、床洗浄、空調清掃など、施設の衛生管理を総合的に行っています。大型施設にも対応しており、定期的なメンテナンスで施設の維持に貢献し、効率的な施設経営をご提案します。

複数店舗の情報一元管理

複数店舗の情報を一元管理し集約して本部へご報告します。これにより、各店舗の管理が簡素化されます。

ダイキョウクリーンの5つの強み

1 大型複合施設の高層階や地下階にも対応

対応が難しいビルや大型複合施設などにも対応。高圧洗浄車をはじめ、各種バキューム車、ポータブル洗浄機材などを揃え、お客様の要望にきめ細かく応えます。

2 全国規模のチェーン店にもワンストップで対応

全国にサービスエリアを拡大。関西・関東を拠点にサービス提供地域は計14都道府県。複数店舗を持つ企業や全国展開の大手チェーン店にも窓口ひとつで対応、情報を一元管理し、業務の効率化にも貢献しています。

3 「クレーム件数ゼロ」を追求

清掃を手がける従業員はすべて社内研修を受けており、清掃器具の搬入から清掃、マニフェスト伝票の発行、搬出にいたるまで、凡事徹底のもと丁寧な仕事を心がけています。

4 法令順守による適正処理の徹底

清掃時に回収した油や食品残さは産業廃棄物としてすべて適正に処理し、業務完了後にそれを証明するマニフェスト伝票を発行しています。

5 年間作業実績3万件以上

豊富な実績で積み上げた技術力とノウハウで、あらゆる施設のニーズに対応。グリストラップ清掃はもちろん、大型ショッピングモール、空港、病院などの排水管や貯水槽の清掃、補修などサービスも拡大しています。

STAFF INTERVIEW



業務改善で現場を支え、ヨット部で日本一をめざす

山本 宝 関西事業部 業務担当 2025年12月入社

大学卒業後、不動産業界を経て、実業団チームの活動をきっかけに2025年12月に入社しました。現在は業務部門にて、現場作業員のみなさまがスムーズに動けるための資材準備や、作業後にお客様へ提出する報告書、各種申請書などの作成を担当しています。また、ヨット部にも所属し、競技と仕事の両立に全力で励んでいます。当社の魅力は、入社間もない私のちょっとした効率化の提案に対しても、上司が前向きに応え、挑戦させてくれる風通しのよさです。現在は紙のチェックシートのWEB化などを進め、現場の負担軽減とよりよい業務環境の構築に取り組んでいます。今後はさらに任せられる業務の幅を広げ、社内外から頼られる存在へと成長するとともに、ヨット部ではチーム一丸となって日本一をめざしています。

デジタル化で現場を支え、お客様に最適な選択肢を提案

坂本 麗奈 関東事業部 営業担当 2025年12月入社

大学卒業後、保育に関わる仕事を経て人材派遣の営業に。さらにワクワクできる仕事を求めて、ダイキョウクリーンに入社しました。現在は関東事業部に所属し、営業活動と配車スケジュールの調整業務を兼務しています。当社の魅力は、社歴にかかわらず新人の意見を柔軟に取り入れてくれる風通しのよい社風です。実際に、これまで紙ベースで行われていた配車調整をオンラインの共有シートへ移行する提案を行い、パソコンが苦手なメンバーをサポートしながら、よりよい業務環境づくりを推進しました。営業と現場スタッフの連携が非常に密で、互いに助け合う温かいチーム感が日々のやりがいに繋がっています。今後は、お客様の課題に対して一つの正解を押し付けるのではなく、複数の選択肢を用意し、最適な解決策を選び取ることができるような営業として成長したいです。



株式会社大栄衛生

西宮市のごみ収集事業

西宮市の地域インフラを支え、次なるステップへの飛躍をめざす



会社概要

資本金：10百万円
従業員：85名

代表取締役社長
赤澤 健一

事業の概要とそこに込めた思い

株式会社大栄衛生は、西宮市から委託を受けて家庭から出る「生活系ごみ」と店舗・企業などの事業所から出る「事業系ごみ・産業廃棄物」の収集運搬を行っています。

私たちの使命は、安全・確実な回収で地域の生活環境を守るだけでなく、環境保全および資源を循環させる社会をつくることです。自治体のルール変更などにもすばやく対応し、事業者のみなさまが安心して本業に専念できるよう支えています。

地域社会になくてはならない仕事を通じて、市民のみなさまがいつまでも安心して暮らせる街づくりに貢献し、これからも地域社会とともに歩んでまいります。

2025年度の振り返りと2026年度に向けて

2025年度は、西宮市における事業系一般廃棄物の制度変更に対し、丁寧な案内と契約サポートを迅速に行い、地域に混乱なくスムーズな移行を実現しました。同時に、多様な人材が長期的に活躍できるよう働く環境の整備も進めてまいりました。

2026年度は、「人」と「スキル」を育てることに正面から向き合い、事業を発展させる重要な1年と位置づけています。現場社員との対話のうえで達成可能な目標を設定し、小さな成功体験を積み重ねて強い組織を構築するとともに、社員一人ひとりの将来を見据えたキャリア形成を支えます。

こうした組織基盤のもと、西宮市での地域貢献を確固たるものにししながら、新たな市場への展開を進めます。さらに、単なる回収作業にとどまらず、お客様の隠れたお困りごとにきめ細かく応える提案型サービスを積極的に推進してまいります。

大栄衛生の事業

廃棄物収集運搬事業

法人向けサービス

事業系一般廃棄物の収集運搬

日々、西宮市内の各事業所から排出される一般廃棄物の回収を行っています。回収した一般廃棄物は西宮市の処理施設に搬入し適正処理を行います。

産業廃棄物収集運搬

近畿二府四県の企業のあらゆる産業廃棄物を迅速・安全に収集し、中間処理施設や最終処分場に運搬します。業務の効率化を図るため、電子マニフェストを導入。多彩な車両や専用コンテナでニーズにお応えします。

個人向けサービス

不用品などの回収

玄関や階段が狭くて運び出せないといった危険を伴う搬出作業や、引越し時などに発生する大量の不用品を一気に処分したいというニーズにお応えします。

行政委託サービス

市のごみ収集を受託

西宮市の家庭ごみの収集運搬を行っています。この事業を、市民の暮らしを支える重要な「生活インフラ」と位置づけ、地域社会の日常を守る責任と誇りをもって社会に貢献していきます。

取り組み

「廃棄物計量システム」と「従量課金制」

ごみを積み込むだけで重量が計測できるスケールパッカー車と、ごみの量をデータ管理する「廃棄物計量システム」を導入。ごみ収集量を「見える化」し、収集量に応じて料金を課す「従量課金制」で、顧客のごみの減量への意識向上と処理費用の削減に貢献しています。

BCP（事業継続計画）の策定と実行

近年の自然災害や新型コロナウイルス感染拡大など、サービスの遂行を妨げる事案に対してBCP（事業継続計画）の策定と実行に注力し、「いかなる時も市民サービスを止めない体制」を整えています。

TOPIC

スローガンを策定しました！

採用強化にともなうリブランディングを実施しました。社員みんなで自社の強みについて考え、スローガンを「Be Proud, Be Bold. ～プライドを力に、次の一步へ～」と策定。70年の歴史で培った信頼や廃棄物の知見、地域に貢献する仕事であるというプライドを再認識し、新たな挑戦をしていこうという方向性が定まりました。



ユニフォームを刷新しました！

西宮のアメカジショップ「ラットレース」とコラボし、ユニフォームを刷新しました。腕には、西宮市のごみ袋を持って走る「ラットくん」、胸には大栄衛生のトラックのキャラクター。ぜひご注目ください！ ※写真真中央は、ラットレースのオーナー・小川尚久さん



西宮市内の小学校でごみと資源についての「出前授業」

西宮市内の小学校で出前授業を行っています。実際にパッカー車の実物を身近に見てもらい、機能の説明やごみ袋の投げ入れ体験を行うことで、家庭ごみの出し方・分け方のマナー、リサイクルや環境問題などについての興味を深め、学びの機会を提供しています。



STAFF INTERVIEW



現場の経験を武器に、お客様の「真の困りごと」を解決する

永村 正明 経営戦略部 事業開発グループ 2019年3月入社

収集ドライバーとして入社し、西宮市の家庭ごみ収集や粗大ごみの現場で長年経験を積んできました。昨年11月に経営戦略部へ異動し、現在は市外への新規開拓営業を担当しています。私の強みは、現場を熟知しているからこそできる、嘘のない「実現性の高い提案」です。実際に収集が可能か、効率よく運べるかを瞬時に判断できる経験は、お客様への大きな安心感に直結します。現在注力している「ちょこっと回収」は、お客様の些細な困りごとに耳を傾け、丁寧なヒアリングを通じて柔軟な解決策をめざす中で生まれました。展示会などでの出会いを一つ一つのご縁に変え、地域インフラを支える誇りをもって活動しています。また、現場から営業へというキャリアの道筋を自ら示すことで、後輩たちが多様な未来を描ける組織づくりに貢献したいと考えています。

トップとの距離の近さが生む、風通しのよい職場環境

浅井 拓真 業務部 委託業務課 2022年9月入社

業務部の主任として、西宮市内の家庭ごみ収集などの現場を統括しています。私が仕事をするうえで最も大切にしているのは、住民のみなさまへの挨拶です。ごみ収集は地域のみなさまの生活に直結する仕事であり、そこには信頼関係が欠かせません。現場では常に「自分の家だと思って丁寧に行う」ことを部下たちにも伝えており、小さなごみの取り残しも許さない徹底した姿勢を追求しています。また、当社の魅力は赤澤社長との距離の近さです。多忙な中でも現場の状況を細かく気かけ、温かい労いの言葉を直接かけてくださる環境が、私たちの大きな励みとなっています。これからも地域の美化を守るプロフェッショナルとして、誇りをもって日々の業務に邁進し、よりよい街づくりに貢献します。



株式会社大協

伊丹市のごみ収集事業 人材派遣業

エッセンシャルワーカーの価値向上と、ダイバーシティのさらなる推進を



会社概要

資本金:10百万円
従業員:101名

代表取締役社長
平井 里美



事業の概要とそこに込めた思い

株式会社大協は、兵庫県伊丹市における一般廃棄物および関西一円の産業廃棄物収集運搬事業を担うとともに、エッセンシャルワーカーに特化した人材派遣事業「Gキャリア」を展開しています。現場の大変さや求められる安全基準を自ら熟知しているからこそ、求職者の不安に寄り添い、企業との精度の高いマッチングを実現することができます。ごみ収集と人材派遣という2つの事業のシナジーを通じて、社会を根底から支えるエッセンシャルワーカーの価値を高めることが使命です。

2025年度の振り返りと2026年度に向けて

2025年度は、深刻な人手不足が続く中、人材派遣事業「Gキャリア」が大きな飛躍を遂げた年でした。長年培った自社の安全ノウハウを活かした独自の研修制度と、就業後の手厚いフォローアップ体制が功を奏し、派遣スタッフの高い定着率を実現しました。伊丹市でのごみ収集業務においても、地域見守り活動と連動した市民サービスを徹底し、安心・安全なインフラ運営を継続しました。また、障がい者雇用や女性登用にも積極的に取り組み、多様な価値観・働き方ができる職場環境を整備し、ダイバーシティ経営を推進しました。

2026年度は、組織の機動力をさらに高めるため、次世代のリーダー育成と中間管理職層の強化に注力します。人材派遣事業においては、求職者と企業双方にとっての「カルチャーフィット」をより重視し、伴走型の支援体制をブラッシュアップさせます。現場のスタッフ一人ひとりが自律的に安全と品質向上に取り組める環境を整え、「五方よし」を体現する企業として、地域社会とともに持続的な成長をめざします。

大協の事業

廃棄物収集運搬事業

法人向けサービス

事業系一般廃棄物および産業廃棄物の収集運搬

事業所から搬出される一般廃棄物を定期的に回収し、市の処理施設に搬入。工場から排出される産業廃棄物、医療機関から排出される感染性廃棄物などの収集運搬も行っています。また、あらゆる産業廃棄物も迅速・安全に収集し、中間処理施設や最終処分場に運搬。業務の効率化を図るため、電子マニフェストを導入。多彩な車両や専用コンテナでニーズに応えます。

個人向けサービス

粗大ごみの回収

玄関や階段が狭くて運び出せないといった危険を伴う搬出作業や、大量の不用品を一気に処分したいというニーズにお応えします。

行政委託サービス

市のごみ収集を受託

伊丹市内の生活系ごみの収集運搬を行っています。この事業を「市民サービス」と捉え、地域に根ざしたサービスで社会に貢献したいと考えています。

取り組み

「廃棄物計量システム」と「従量課金制」

ごみを積み込むだけで重量が計測できるスケールパッカー車と、ごみの量をデータ管理する「廃棄物計量システム」を導入。「従量課金制」で、顧客のごみの減量への意識向上と処理費用の経費削減に貢献します。

BCP（事業継続計画）の策定と実行

サービスの遂行を妨げる事案に対してBCP（事業継続計画）の策定と実行に注力し、「いかなる時も市民サービスを止めない体制」を整えています。

3S「整理」「整頓」「清掃」の実行

職場の環境を美しく保つことを通して、業務の生産性や安全性、品質を向上させることをめざしています。



人材派遣事業

環境ビジネス業界に特化した人材派遣事業「G career（ジーキャリア）」は、エッセンシャルワーカーの育成から人材派遣、人材紹介、請負事業までをサポートしています。環境ビジネス業界の人材不足という課題解決だけでなく、採用や人材研修、定着率の向上、労働環境改善まで幅広くサポートすることで、業界全体の人事労務管理に貢献していきたいと考えています。

業界未経験の人材を育成するG careerの研修カリキュラム

ドライバー10日間、助手5日間の研修カリキュラムで、業界未経験者を育成し、「即戦力」として派遣できることが当社の大きな特徴です。研修には、直接の業務にかかわる運転技術や安全教育はもちろん、仕事に対する姿勢やマナー研修も取り入れ、環境ビジネス業界と地域社会に貢献する人材の育成をめざしております。



対応エリアと対応業界を拡大中

阪神間を中心に、大阪、神戸、奈良、京都、和歌山まで対応エリアを拡大。一般廃棄物業界だけでなく、産業廃棄物業界、ビルメンテナンス業界にも進出し、対応業種・職種も増やしています。

STAFF INTERVIEW



新人を孤立させない教育で、現場のプロを育成する

笠島 和也 業務部 2022年11月入社

建設現場での溶接や土木作業を10年以上経験した後、安定した環境と事業内容に魅力を感じて入社しました。現在は業務部の主任として、自ら収集車に乗りながら、新人スタッフの教育・指導を担当しています。ごみ収集は2人1組で多くの拠点を回る持久力と機動力が求められる仕事ですが、自らの現場経験を活かした丁寧な研修を心がけています。特に大切にしているのは、新しく入社した方を決して孤立させないことです。現場での不安に寄り添い、何でも相談できる雰囲気をつくることで、未経験からでも安心してプロをめざせる体制を整えています。多様なバックグラウンドをもつ人が集まる風通しのよい職場で、これからも一人ひとりと丁寧に向き合い、地域社会を支えるエッセンシャルワーカーを育成してまいります。

自らの行動でデジタル化を推進し、業務効率を高める

岡 美紗 営業推進部 2023年4月入社

営業推進部にて、主に売上入力や請求業務、粗大ごみの受付などを担当しています。前職で18年ほど事務経験を積んだ後、地元である伊丹市で子育てと仕事を両立できる環境に魅力を感じて入社しました。日々の業務では「よりよい方法を自ら考えて実行する」ことを大切にしています。その一つとして、これまでアナログで行っていた請求書の郵送業務を電子化する取り組みを自ら提案し、推進しました。お客様へ丁寧に説明を行い、協力をお願いすることで、現在では約9割の電子化を実現できました。これにより事務作業の効率が劇的に向上し、スピーディな対応が可能となっています。また、現場で活躍するスタッフのみなさんとのコミュニケーションを大切に、チームの和を大切にしています。これからも、自身の行動力をもって業務のデジタル化をさらに進め、地域インフラを支える大協の活動を力強く支えていきたいです。



Sustainability

サステナビリティ基本方針

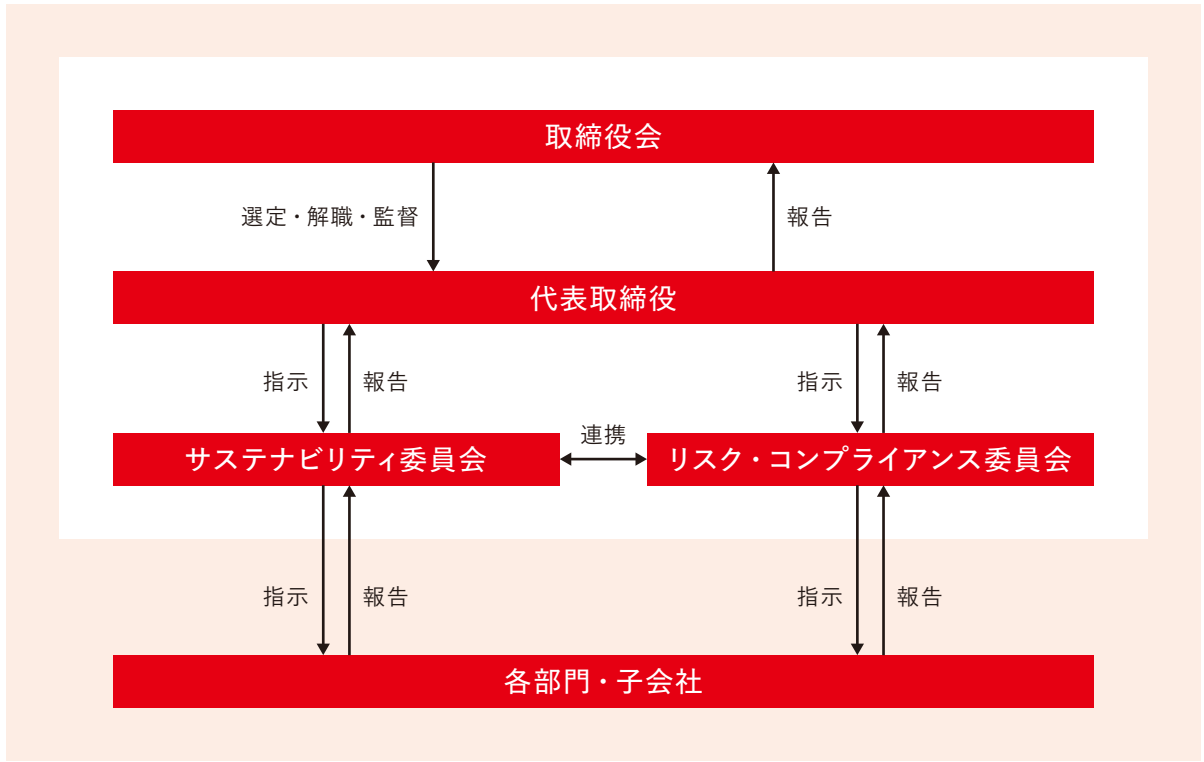
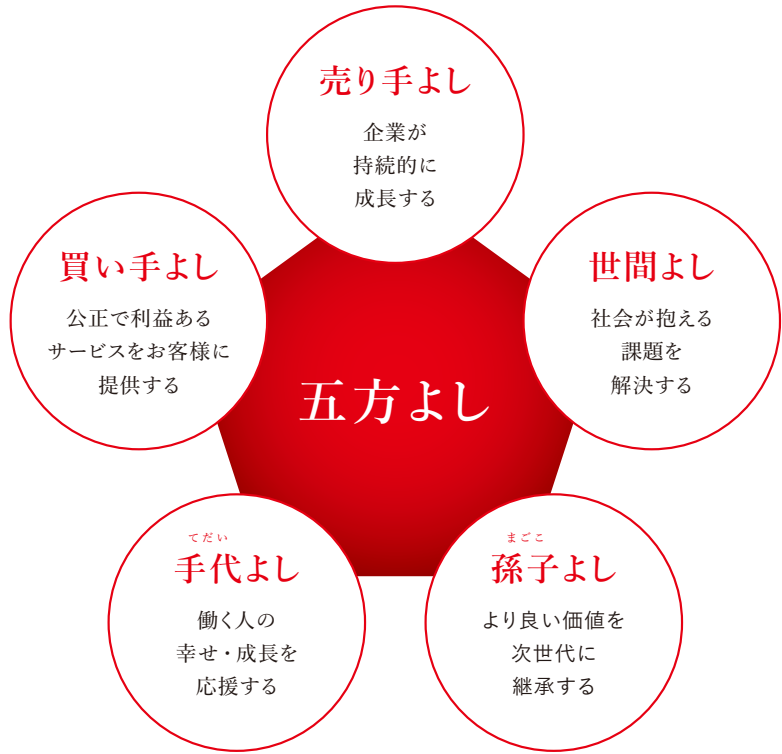
経営理念である「五方よし」をサステナビリティの基本方針とし、社会課題や環境課題に向き合い、事業を通じて持続的な企業価値の向上をめざします。

サステナビリティ推進体制

グッドホールディングスグループは、サステナビリティに関する方針・目標・実行計画の策定、サステナビリティ課題に対する取り組み推進やTCFD提言に関する情報開示に加え、モニタリング、マテリアリティ（重要課題）の特定を行っています。

その内容はリスク・コンプライアンス委員会と連携して代表取締役を経由し、取締役会にて原則年に2度報告されています。

取締役会は、当委員会からの答申・報告に基づき重要課題の決定および監督を行っています。



Materiality

重要課題（マテリアリティ）

マテリアリティの特定

社会課題の解決に貢献しながら持続的に成長していくために重要課題を特定しました。

ダイバーシティ・働きがい	だれもが自身の能力を最大限に発揮し、挑戦できる環境をつくる
労働環境・安全・健康	すべてのステークホルダーに対して、安全・安心に過ごせる環境をつくる
脱炭素	協働や連携により、より広い視野でカーボンニュートラルの構築をめざす
資源循環・環境保全	事業を通じて持続可能な社会の実現／発展に貢献する

マテリアリティの特定・見直しプロセス



ダイバーシティ・働きがい

だれもが自身の能力を最大限に発揮し、挑戦できる環境をつくる

テーマ		
女性活躍の推進（あらゆる職種で女性が活躍できるようにする）		
	2025年3月末	2026年3月末
女性比率（契約社員含む、役員含む）	13.42%	15.60%
女性役職者比率（主任以上、役員含む）	11.82%	15.52%
ダイバーシティの推進（高齢者、障がい者、外国人材の雇用）		
	2025年3月末	2026年3月末
障がい者延べ雇用人数	5名	8名

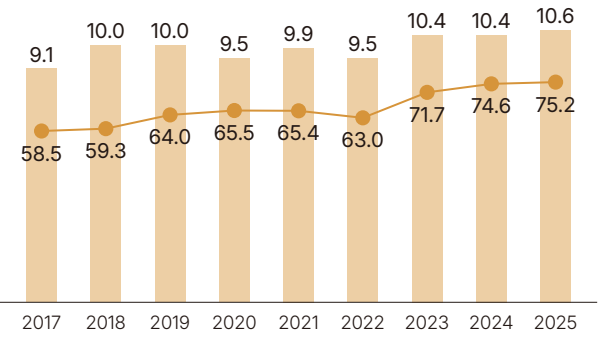
ライフイベントにも対応し、男女関係なくともに活躍できる職場、仕組みの整備

当グループでは、性別や年齢、障がいの有無などの属性に捉われない採用、役員・管理職への登用をめざし、基本制度（半日有給・育児・介護、在宅勤務など）の整備および、業務内容の整理を継続的に実施しています。

主な支援制度

制度名	制度の内容	2025年度 利用者数／取得比率
産前産後休業制度	出産前および出産後において一定の期間で休業が可能です	0名（対象者0名）
育児休業制度	育児に専念するため、性別に関係なく、子が1歳に達するまで（最長1歳6ヵ月まで）休業が可能です	男性5名（対象者10名） 女性0名（対象者0名）
定年退職者再雇用制度	60歳を超えても働く意欲があり、一定の基準を満たすすべての方を嘱託として再雇用します	1名（対象者2名）
介護休業制度	介護を必要とする家族の介護のために一定の期間で休業が可能です	0名
短時間勤務制度	3歳に満たない子を養育する社員または家族を介護する社員は、所定労働時間の一部を短縮した勤務が可能です	2名
自己啓発支援制度	会社の認めるビジネススクールの受講や資格の取得に対し支援金を支給します	1名
慶弔見舞金制度	結婚祝金・出産祝金・傷病見舞金・災害見舞金・死亡弔慰金があります	45名

有給休暇取得状況



各種規程の制定や改定

法令の改正とともに、人事制度や働き方の改善や選択肢の拡大に対して、関連する規程の改定や新たな規程の制定を継続的に行っております。2025年度には、下記記載の規程制定および改定を行いました。

制定	短時間正社員就業規程
改定	業務分掌規程、職能グレード規程、印章管理規程、車両管理規程、出納管理規程、自己啓発支援制度規程、文書管理規程、就業規則、慶弔見舞金規程、賃金規程

ひょうご仕事と生活の調和推進企業に認定

ワーク・ライフ・バランス向上に取り組んでいます

株式会社リリーフは、社員のワーク・ライフ・バランスに向けた取り組みが評価され、兵庫県の「ひょうご仕事と生活の調和推進企業」に認定されました。今後も、育児や介護、地域活動と仕事を両立しながら、社員一人ひとりが能力を発揮できる職場づくりを進め、持続可能な社会の実現と企業価値の向上に努めてまいります。



委託車両の小型化計画

多様な人材の活躍に向け、
運転や作業がしやすい車両を導入

株式会社大協は、委託事業における車両の小型化計画を推進しており、2031年3月期までに計5台の導入完了を予定しています。本取り組みは、従来の大型車を減らし、運転や作業がしやすい中型車へと切り替えることで、多様な人材が活躍できる環境を整えるものです。車両の小型化により、これまでハードルが高かった女性や高齢のドライバーでも安心して働ける職場づくりを進めています。



特別支援学校向け「仕事体験フェア」への出展

支援が必要な方の社会進出を推進します

株式会社リリーフは、阪神間の特別支援学校3校が合同で開催した生徒向けの「仕事体験フェア」に出展いたしました。当日は代表取締役社長をはじめとするメンバーで参加し、出展企業8社の一員として生徒たちに実際の業務を体験する機会を提供しました。また、各学校の就職活動担当教員との意見交換会も実施し、支援が必要な学生の新卒採用に関する現状や課題、今後の可能性について活発な議論を交わしました。



テーマ

人材開発（個別キャリアプラン実現に向けたサポート）

かねてより入社時研修やOJT研修は行われていましたが、各社の状況に応じてさらなる人材開発の取り組みを推進しています。また資格・技能習得への支援や各種手当の拡充も実施されました。

オンボーディング・基礎教育	・入社時研修（会社概要、コンプライアンス、社内ルール等の基礎知識） ・配属先でのOJT研修（業務システム、作業手順などの実践指導）
自律的なキャリア形成支援	・1on1ミーティング、キャリア面談の実施 ・社内公募制度、ジョブローテーションの実施
マネジメント・リーダー育成	・EQリーダーシップ、考課者研修の実施 ・アンガーマネジメント研修の実施 ・業務リーダー制度の導入
専門スキル、営業力強化	・廃棄物管理士講習会の受講 ・遺品整理マイスター制度の導入 ・営業力強化研修、クリティカルシンキング研修の実施
デジタル、DX人材の育成	・AI活用、データマネジメントに関する研修の実施 ・DX推進に向けた思考法、リテラシー教育の実施

※上記はグループ全体での取り組み実績を総括したものであり、グループ共通の研修と、各社が独自に実施している専門プログラムが含まれます。

資格取得支援制度の活用

働く人のキャリアアップを積極的に支援しています

勤務するうえで必要となる資格の技能講習や定期的な研修の受講はもちろん、社員全員が安全かつ質の高い業務遂行ができるよう資格取得の支援を行なっております。

資格取得一覧

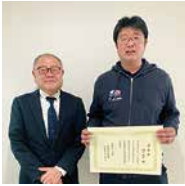
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	11名
酸素欠乏・硫化水素危険作業特別講習	5名
廃棄物管理士	26名
玉掛け特別教育	1名
職長安全衛生責任者教育	10名
安全衛生推進者	1名

永年勤続表彰、定年従業員

功績をたたえ、12名を表彰しました

勤続10年、20年、30年の節目にあたる社員の功績をたたえ、永年勤続者として表彰しています。また、2025年度には2名の方が定年を迎えられました。長きにわたるご尽力に感謝いたします。

グループ7社 永年勤続表彰者（2025年度）		グループ7社 定年従業員（2025年度）	
勤続年数	対象人数	定年従業員	2名
30年	7名	内再雇用	1名
20年	2名		
10年	3名		
合計	12名		



労働環境・安全・健康

すべてのステークホルダーに対して、安全・安心に過ごせる環境をつくる

テーマ		
安全な職場環境づくり		
	2025年3月末	2026年3月末
休業労災	13件	15件

グループの安全管理体制の構築と推進

グループ代表がリーダーとなり、各社の労働安全管理者とともに月1回の労働安全推進プロジェクトを開催。労働安全の目標設定、教育スケジュールの作成と進捗確認、関連法令や事故事例を共有し、安全管理体制を構築・推進しています。

活動内容

1. トラブル事例の共有と再発防止
- 各社の事故やヒヤリハット・クレームなどトラブルの内容、原因、是正や予防措置等を共有し、グループ内に展開
2. 外部類似事例からのリスクマネジメント
- 他社や類似業種／同業種でおきた事故を共有、自社のケースに置き換え、注意喚起や安全意識の向上を図る
3. 教育訓練の進捗管理
- 各社が計画している労働安全衛生に関する教育訓練スケジュールの進行状況を確認し、計画的な実施を推進
4. 法改正への対応とコンプライアンスの徹底
- 労働安全衛生法や道路交通法などの関連法規の改正情報をキャッチアップ、法改正に伴い「各社が具体的に対応すべきこと」を明確にし、コンプライアンス違反を未然に防止

安全な職場環境づくりの取り組み

安全教育・事故防止の徹底	・労働安全衛生委員会の開催、安全ミーティング ・労働安全マニュアル、法定12項目等の安全教育 ・ヒヤリハットビデオ研修、無事故無違反運動 ・ドライバー安全講習
安全作業のための資格取得・技能講習	・作業手順書の定期的な読み返し、一般教育・専門教育 ・各種技能講習・特別教育の徹底（フォークリフト、クレーン、玉掛け、酸素欠乏・硫化水素、フルハーネスなど）
緊急事態対応・防災への備え	・定期的な緊急事態（対応）訓練の実施 ・事業所における防災教育
心身の健康・コンプライアンス	・ハラスメント防止研修（一般向け・管理職向け） ・アンガーマネジメント研修 ・メンタルヘルスセミナー

※上記はグループ全体での取り組み実績を総括したものであり、グループ共通の研修と、各社が独自に実施している専門プログラムが含まれます。

ISO45001の取得

国際的な労働安全衛生マネジメントシステム規格

当グループでは「産業廃棄物処理業者の事故は最大の環境破壊である」という理念のもと、労働安全衛生の強化に注力しています。株式会社リヴァックスは2008年10月に当時のOHSAS18001（現・ISO45001）を他社に先駆けて取得。株式会社swellも、2025年9月にISO45001を認証取得いたしました。今後も全従業員が事故なく安全・安心に働ける職場環境の維持と向上に努めてまいります。

優良健康法人認定を取得

すべての従業員が健康であり続けるために

株式会社リリーフは、従業員の健康に配慮した経営が評価され、経済産業省と健康経営優良法人認定事務局が選定する「健康経営優良法人2026（中小規模法人部門）」に認定されました。

これからも、すべての従業員が健康で生き活きと働き続けられるよう健康経営をさらに深化させ、働きがいのある労働環境の維持・向上に努めてまいります。



経営層や専門職による定期的な職場巡視

職場の安心と安全を守ります

当グループでは、全従業員が安心して働ける環境づくりのため、産業医や経営層による定期的な職場巡視と労働環境の改善を行っています。

現場の安全パトロールは、株式会社リヴァックスおよび株式会社大協では社長自らが、株式会社大栄衛生では安全・衛生管理者が、その他の会社では産業医が職場を巡回し、リスクの早期発見と対策を徹底しています。



従業員の心とからだの健康管理

アルバイトを含めたグループ全従業員を対象に、健康診断およびストレスチェックを実施しています

産業医による健康診断を年に1回（深夜勤務のある従業員は半年に1回）実施しているのに加え、希望者を対象にインフルエンザの予防接種を行っています。健康診断の結果がC～E判定など正常参考値を超えた従業員については、産業医に相談し、就業上の措置や健康保持のためのアドバイスを受け、従業員の健康管理に対する意識を高めるとともに、必要に応じて就業内容や労働時間に配慮するなどの健康支援に努めています。

また、心の健康管理として年1回のストレスチェックを実施し、メンタルヘルス不調の未然防止に取り組んでいます。高ストレスと判定された従業員に対しては、産業医による面談を推奨して適切なフォローアップを行うとともに、集団分析の結果を職場環境の改善に役立てています。

2025年度 ストレスチェック実施概要 （グループ全社） 実施期間：2025年7月	対象者	受検者
	正社員	288名
	嘱託社員	5名
	アルバイト	107名
合計		400名

ドライブレコーダーの活用

収集業務の全車両に搭載し、事故を未然に防ぎます

グループ各社では、安全な運行管理と交通事故の未然防止を目的として、業務で使用する全車両に前後を記録するドライブレコーダーを導入しています。記録された映像データは、万が一事故が発生した際の原因分析や再発防止策の策定に活用するほか、日常業務におけるヒヤリハット事例を乗務員の安全教育や的確な運転指導に役立て、ドライバーの安全意識向上に繋げています。また、リアルタイムでの位置情報把握システムも併用し、安全で効率的な運行管理や、エコドライブの推進によるCO₂排出量の削減にも全社を挙げて取り組んでいます。



ドライブレコーダーの映像

環境・安全に対する対策

安全管理および廃棄物管理に関する研修に参加しています

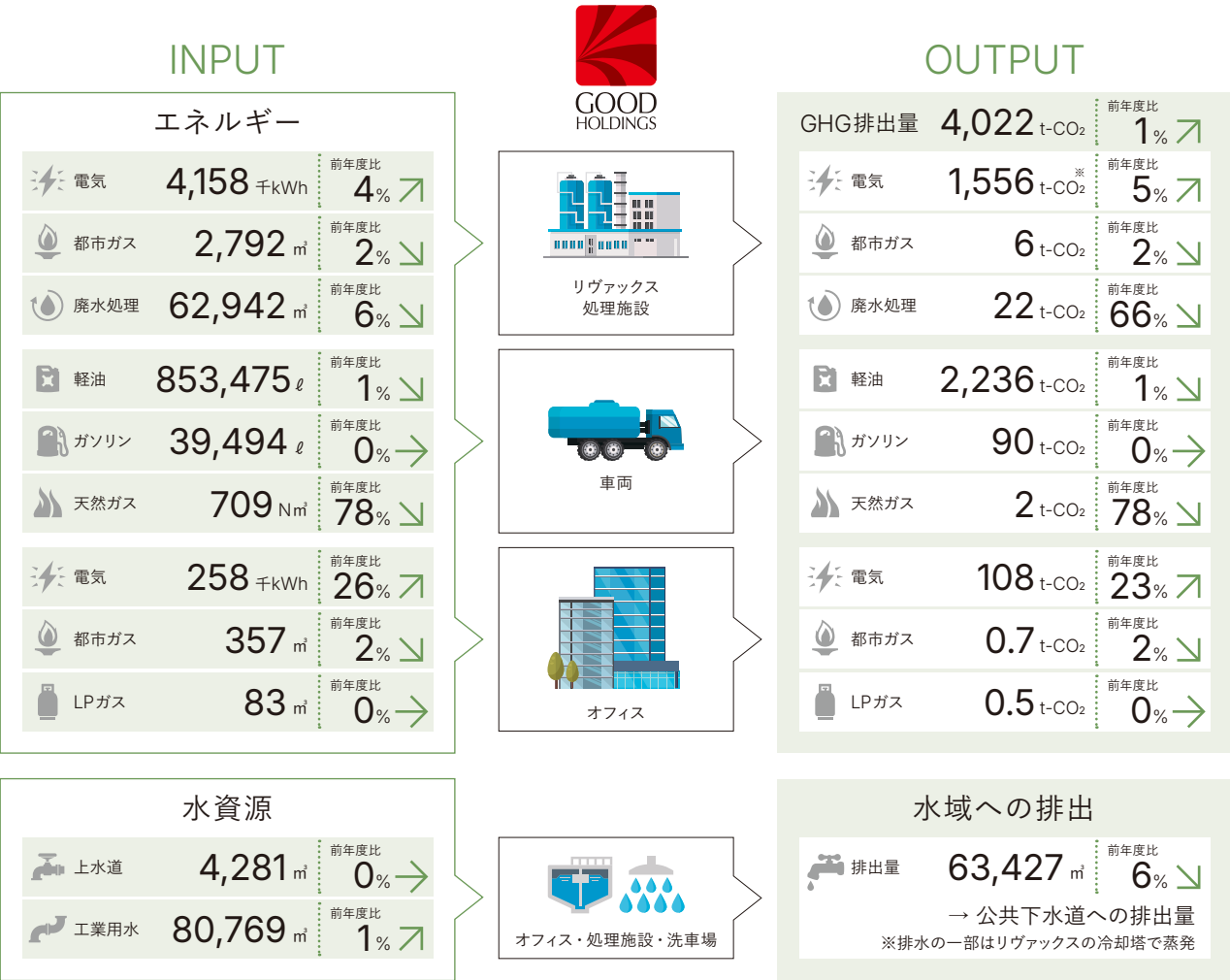
廃棄物に関する基礎知識の習得、環境保全および労働安全に対する意識づけを目的とし、大阪府産業資源循環協会が実施している廃棄物管理士講習会に参加いたしました。また、廃棄物の収集・運搬過程についても知見を深めるため、産業廃棄物または特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会へも参加しています。

テーマ		
事業活動におけるGHG排出量の削減（2030年度目標 4,330t-CO ₂ の達成）		
GHG排出量 (Scope1,2)	2025年3月末 3,987t-CO ₂	2026年3月末 4,022t-CO ₂
事業活動を通じて社会全体のCO ₂ 排出量削減に貢献		
売電量	2025年3月末 2,995MWh	2026年3月末 2,475MWh

環境プロジェクトを設置しています

四半期に1回グループ合同で、GHG排出量の把握と削減への取り組み状況などの情報共有を行うプロジェクトを実施し、目標達成に向けて推進しています。数値データなどは、リスク・コンプライアンス委員会でも共有されています。

事業活動に必要な資源・エネルギーなどの投入量 (INPUT) と二酸化炭素 (CO₂) などの排出量 (OUTPUT) ／ 2025年度



資源循環・環境保全

こども農業塾の開催

子どもたちの農業体験・学習をサポートしています

こども農業塾とは、阪神間の中でも豊かな自然が残っている甲山にて、子どもたちが土づくり（落ち葉堆肥づくり）や米づくりなどの体験を通じて、自然の仕組みに関すること、自分たちの生活のことについて学ぶ取り組みです。

食はもちろんのこと、その基となる農業について学び、実際に体験する場を提供することも社会的責任の一つであり、次世代の育成にもつながるとの思いからスポンサーとして主催、運営事務局であるNPO法人こども環境活動支援協様と協働で開催しています。

2025年度は小学生のお子さんを持つ家族での参加を対象とし、10組のご家族と一緒に全5回の活動が行われました。

2025年度こども農業塾 1年間スケジュール

- 第1回 田植え・野菜の植付け・春野菜収穫
- 第2回 川遊び（甲山キャンプ場）・夏野菜収穫
- 第3回 稲刈り・フィールドビンゴ
- 第4回 芋ほり・脱穀作業・しめ縄準備
- 第5回 しめ縄づくり・焼き芋・修了式



寄付による支援活動

収益の一部を次世代の環境学習や食育の推進に

株式会社リヴァックスは、前年度収益の一部を活用し、食品ロス削減に取り組む団体を支援しています。

2020年から認定NPO法人フードバンク関西への寄付を継続し、食料調達や配送、運営費に活用されています。また、セカンドハーベスト・ジャパンを賛助会員として支援しています。

さらに、西宮市内3施設へ食育図書を寄贈し、「環境学習都市にのみや・パートナーシッププログラム」の事業認定を受けています。



事業を通じて持続可能な社会の実現／発展に貢献する

産学連携の活動

大学生と中学生に学びの場を提供しました

当グループは、地域社会の発展と人材育成への貢献に向け、次世代への環境教育や産学連携に注力しています。

グッドホールディングス株式会社は、武庫川女子大学と2024年2月に包括連携協定を締結しました。これに基づき、2025年6月には同大「環境共生学部」の学生を株式会社リヴァックスの「西宮バイオガス発電プラント」に招き、実地見学やプラントのPR企画を考案する課題解決型の課外活動を実施いたしました。さらに、同年7月に関西大学第一中学校の環境学習も受け入れ、バイオガス発電の仕組みを通じて、産業廃棄物のリサイクルや脱炭素への貢献について学ぶ機会を提供しました。



木材資源のリサイクルと環境負荷の低減

廃棄物の減量化とCO₂削減に向けて

株式会社リリーフでは、関西事業所における取り組みとして、回収した木材を単に焼却・廃棄処分するのではなく、専門の提携業者へ引き渡し、木材チップとして再利用するリサイクルを実施しています。これにより、廃棄物の減量化や焼却時のCO₂排出量削減に繋がっています。今後も現場での適切な分別を徹底し、限られた資源を無駄なく活かす循環型社会の形成に貢献してまいります。



法令遵守

健全で透明な企業経営を土台に、優れたサービスによって社会に貢献する

ISO14001（環境マネジメントシステム）の取得

環境・安全マネジメントシステムの継続的改善をおこなっています

環境保全への継続的な取り組みとして、株式会社リヴァックスが2000年9月に、株式会社大協が2008年1月にそれぞれISO14001（環境マネジメントシステム）を認証取得いたしました。両社は、産業廃棄物の処理や収集運搬といった事業活動が環境に与える影響を深く認識し、環境負荷の低減に努めています。今後も本マネジメントシステムに基づく目標設定と改善のサイクルを継続的に回し、地域社会の環境保全および循環型社会の構築に貢献する適正な事業活動を推進してまいります。



事業に関する主な法令（抜粋）

法令	内容
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の処理基準、マニフェスト伝票の交付と管理、委託契約書の締結と管理、収集運搬車両への表示と書面の備え付けなど
大気汚染防止法	NOx、ばいじんなどの排出基準
下水道法	排水の下水道放流基準など
騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法	騒音、振動、悪臭基準
道路交通法	走行速度、停車・駐車禁止、過積載の禁止
道路運送車両法	自動車の点検および整備義務
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	エネルギーの使用状況報告、管理員の選任など
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの算定と報告
労働安全衛生法	安全確保の措置、安全衛生推進者の選任と周知、清掃の実施など
酸素欠乏症等防止規則	濃度測定、保護具・避難用具の常備と点検など
消防法	消防計画の策定、訓練の実施、消防設備の点検など
西宮市との環境保全協定	大気・悪臭などの測定方法や回数など

契約外廃棄物の混入防止

コンテナに掲示板を設置し、混入防止に努めています

事前に契約したものと異なるものが混入していた場合、適正な処理が難しくなるだけでなく、事故や火災などの原因につながる可能性があります。株式会社リヴァックスでは正しい分別ができていない場合、すみやかにお客様に報告するとともに、設置しているコンテナ箱に掲示板を設置するなど、再発および混入の未然防止に取り組んでいます。

過積載の防止

お客様の廃棄物重量と車両の最大積載量を毎回照合しています

産業廃棄物の収集運搬を行う株式会社リヴァックスでは、毎回取得しているお客様の廃棄物重量データと車両の最大積載量を照合し、過積載の防止に努めています。積載量を超過した場合は、お客様に報告して一緒に原因を考え、その対策を講じています。

処理前契約締結の徹底

お客様との事前契約締結を徹底しています

産業廃棄物の処理を委託および受託する際には、委託契約の締結が法律により定められています。当グループでは、契約書の事前締結を徹底し、締結されないまま処理を受託する法律違反を防止しています。とりわけ、産業廃棄物事業を主体とする株式会社リヴァックスでは、取引開始前にお客様情報を登録し、定期的に関係者で締結確認を行うことにより、処理前の契約締結に努めています。

産廃情報ネットでの情報開示

優良産廃処理業者認定制度に沿って情報を公開

2011年度に産廃処理業者優良性評価制度が大幅に改定され、新たに「優良産廃処理業者認定制度※」が創設されました。グループ各社で兵庫県や大阪府をはじめ、複数の自治体の適合認定を受けています。同制度の事業の透明性に係る基準に沿って、当グループの許可内容や財務諸表などの情報を、公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団が運営する「産廃情報ネット」に公開しています。

※優良産廃処理業者認定制度：5つの基準（①違法性 ②事業の透明性 ③環境配慮の取組 ④電子マニフェスト ⑤財務体質の健全性）すべてに適合する優良な産廃処理業者を都道府県・政令市が認定する制度。

〔産廃情報ネット〕 <https://www.sanpainet.or.jp>

社外活動

地球環境課題の解決、地域との共生、
地域発展への貢献をグループで推進

企業スポーツ活動

セーリングチームが
関西実業団9連覇を達成しました

当グループでは、2013年にセーリングチームを創部しました。以降、数々の大会で好成績を収め、2018年10月の全日本実業団ヨット選手権では日本一となり、また2016年および2019年には、日本代表として世界大会に出場するなど着実に実績を積み上げています。

2025年7月に実施された関西実業団ヨット選手権では9連覇という快挙を達成し、全国大会への切符を手に入れました。



2025年度成績・活動報告

- 7月 関西実業団ヨット選手権 優勝（9連覇）
- 9月 全日本実業団ヨット選手権 4位

次世代育成

実践型インターンシップを実施しました

株式会社リリーフは、関西学院大学の学生を対象とした3日間のインターンシップを受け入れました。現場視察やマーケティング実務、「環境ビジネス」の新規事業提案を通じ、実践的な学びを提供する機会となりました。一方、株式会社大協では神戸星城高校1年生2名のインターンシップを受け入れ、2日間のごみ収集体験や施設見学を実施しました。学生から「自宅のゴミ分別を意識したい」との声も上がり、環境への関心を深める確かな学びの場となりました。



地域清掃

地域の美化活動に貢献しています

毎年、各事業会社にて自治組織主催の地域清掃に参加しています。2025年度は、鳴尾浜産業団地の自治組織主催の清掃活動に参加。近隣のごみ拾いと草取り、周辺道路の清掃を行いました。今後も当活動を継続し、地域の美化活動に貢献します。



AEDを設置しています

鳴尾浜事務所および株式会社大協に
AEDを設置しています

職場における不測の事態の備えとしてAEDを設置し、近隣の住民や企業様にもお使いいただけるようにAEDマップ登録を行っています。

大阪市消防局との協力体制

大阪市消防出初式に参加しました

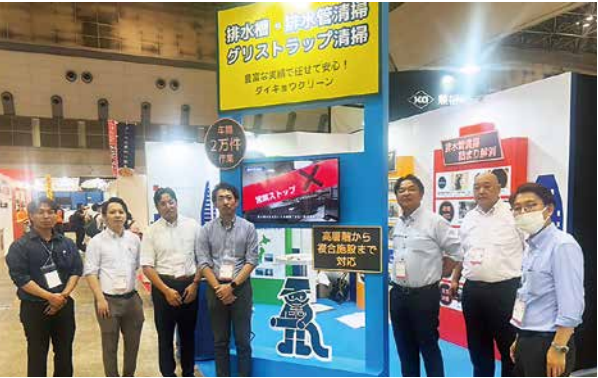
株式会社swellは、ATC（アジア太平洋トレードセンター）にて開催された「令和8年大阪市消防出初式」に参加しました。swellと大阪市消防局は「土砂埋没災害時における消防活動への協力に関する協定」を締結しており、本式典では、消防ヘリコプター・消防車両・消防艇につづき、swellの特殊車両（超強力吸引車）も機械部隊として分列行進をしました。土砂災害や埋没事故発生時に大阪市消防局より要請があれば、吸引車を出動させ、同社のノウハウや技術を生かし、土砂の吸引及び運搬の業務で人命救助活動や被災地域の復旧支援に協力したいと考えています。



展示会への出展

多くのお客様とお会いできる機会をつくります

事業内容やCSRの取り組みを知っていただくだけでなく、多くの方々が抱えている現状の課題をお聞きするため、グループ各社がさまざまな展示会に出展しております。



2025年度に出展した主な展示会

開催月	出展会社	名称
7月	swell	メンテナンス・レジリエンスTOKYO 2025
9月	ダイキョウクリーン	ラーメン産業展
11月	大栄衛生	総務・人事・経理 Week
11月	ダイキョウクリーン	ビルメンヒューマンフェア&クリーンEXPO 2025

キャリア支援

地域の未来を育む「お仕事ノート」を通じた
キャリア教育支援を実施しています

株式会社大協は、地域社会の次世代育成支援を目的に、伊丹市内の小学校で配布される2026年度版のキャリア教育副読本『小学生のためのお仕事ノート（伊丹市版）』に事業内容を掲載しました。本冊子は小学4年生を対象に、多様な職業理解を深める教材として活用されています。誌面を通じて、子どもたちに社会インフラを支える同社の仕事を身近に感じ、将来を考えるきっかけとなるよう、今後も地域に密着した教育支援を通じ、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。



メディア出演・掲載実績

当グループ各社の取り組みを
各メディアにて取材、掲載いただいております

リリース 2025年度メディア出演、掲載実績

掲載媒体名・発行日	取材・出版会社名
リユース経済新聞（2025年9月10日発行）	株式会社リフォーム産業新聞社
マイベストプロ神戸（2025年11月4日掲載）	株式会社神戸新聞社
週刊循環経済新聞（2026年1月26日掲載）	日報ビジネス株式会社

セミナーの開催、登壇

啓蒙活動に努めています

当グループでは、お客様や消費者の方が環境や社会問題に対して、関心・知識をもつことが大切と考えております。そのため、各社で定期的に情報を発信するとともに、みなさまが相談できる場を提供しております。

2025年度に開催、登壇したセミナー

開催月	出展会社	名称
3月	リリーフ	生前整理のいろは
4月	リリーフ	おかたづけから始める終活
6月	リリーフ	生前整理のいろは
8月	リリーフ	片づけが苦手な方必見！プロが教える生前整理
10月	リヴァックス	自然エネルギー勉強会2025
11月	リリーフ	生前整理セミナー

地域の子どものための防犯活動

パッカー車を活用した地域の子ども見守り活動を実施

株式会社大協では地域の防犯活動の一環として、日々の収集業務で市内を走るパッカー車に「こども110番」ステッカーを掲示しています。日常的に地域の隅々まで巡回する収集車両の特性を最大限に活かし、子どもたちが危険を感じた際に駆け込める「動くこども110番」として地域の安全をサポートしています。また、目立つパッカー車にステッカーを貼ることで、地域全体の防犯抑止力向上にも寄与しています。

廃棄物の適正処理という本来の役割を果たすだけでなく、業務を通じた地域社会への貢献活動を推進し、誰もが安心して暮らせる環境づくりに努めてまいります。



社内活動

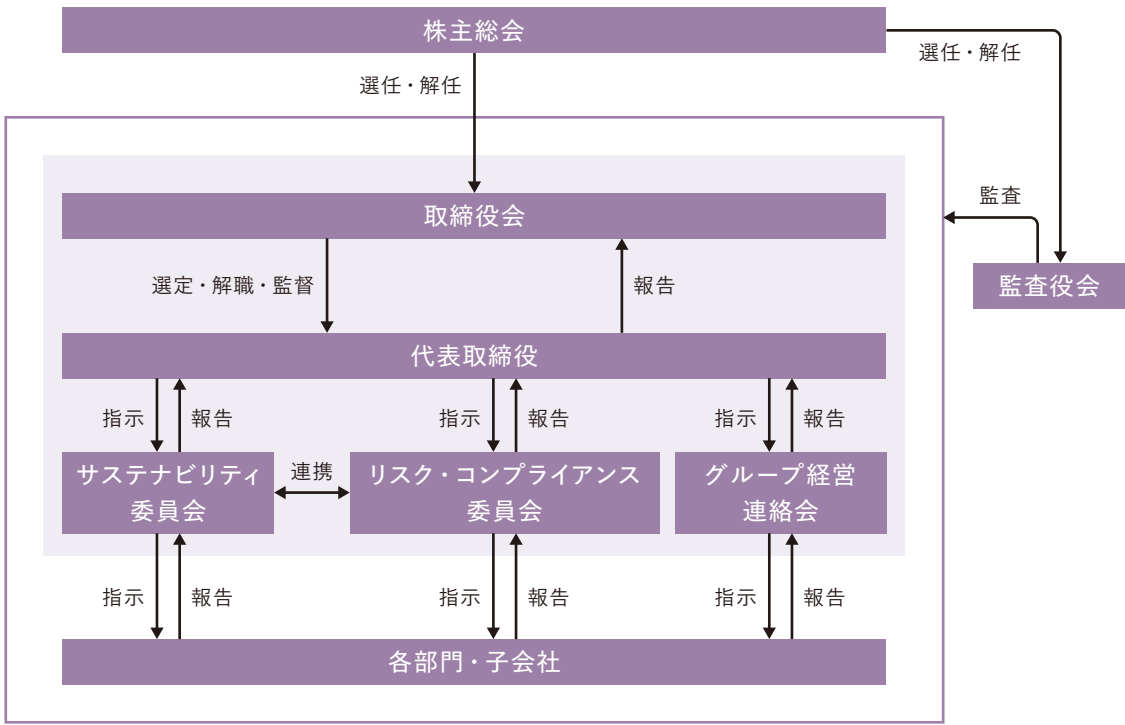
健全な企業経営の下、
優れたサービスを提供し社会の発展に貢献する

経営管理体制

「透明性の確保」「円滑な業務遂行」を重視しています

当グループは、すべてのステークホルダーから安心・信頼される企業グループであり続けるため、健全で透明性の高い事業および経営に努めています。また、グループ全体の持続的成長および中長期的な企業価値向上をめざし、コーポレート・ガバナンスの構築、強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス体系図



取締役会

経営の重要な意思決定と
取締役の業務執行の監督を行います

当社の取締役会は5名により構成されており、経営の重要な意思決定と各取締役の業務執行の監督を行っています。

グループ経営連絡会

グループ全役員および、
経営層の幹部による連絡会で協議を行います

グループ全役員および、経営層の幹部、監査役で構成され、月に1回開催しております。各社の業績報告や決議事項についての協議を行い、グループ内の共通認識を図る機関として運営しております。

リスク・コンプライアンス委員会

総合的なリスク管理と
コンプライアンスの徹底に取り組みます

月に1回開催する当委員会は、グループ代表取締役社長を委員長とし、監査役、子会社代表取締役社長、取締役および委員長から指名された委員で構成されています。会合では潜在的・顕在的なリスクやコンプライアンス違反などについて協議・検討し、総合的なリスク管理に努めるとともに、企業の社会的責任とコンプライアンスの徹底に取り組んでいます。

監査役会

業務執行の監視、監督を行っています

当社の監査役会は、常勤監査役1名、社外監査役2名によって構成され、監査役会規程に基づき原則毎月1回開催し、重要事項について報告、協議、決議を行っています。社外監査役2名は、それぞれ弁護士、公認会計士で、専門的見地と独立した立場から監査を行っています。取締役会のほか、グループ経営連絡会などの重要な会議に出席し、重要な意思決定の過程および業務の執行状況の把握に努めるとともに、必要に応じて取締役に対して勧告などを行い是正を求めています。

VOICE

グッドホールディングス
株式会社
常勤監査役
八鳥 尚志

グッドホールディングス
株式会社
社外監査役
上田 憲

グッドホールディングス
株式会社
社外監査役
南方 得男

「税金と三権分立」 社外監査役／南方 得男

私は年4回ほど、税理士として小学校高学年から中学校低学年の生徒を対象に、「税金」をテーマにした授業を担当しています。

授業ではまず、税金がなければ、ごみ収集、救急・消防、警察、公園、学校といった公共サービスや公共施設がどうなるのかを、DVDを通じて紹介します。税金によって社会が支えられていることを、子どもたちにも分かりやすく伝えてくれる内容で、非常によくできた教材です。ぜひ一度ご覧ください。

税金がなくなった世界 (YouTube)
<https://www.youtube.com/watch?v=MivtD3HhI6M>

私はその後、「なぜ課税の公平性が必要なのか」を説明し、その実現のために、負担能力に応じる「応能負担」と、受益に応じる「応益負担」を組み合わせながら、約50種類もの税金が設けられていることを紹介します。さらに、税金は消費税法、所得税法、法人税法、地方税法など、法律に基づいて徴収されていることにも触れます。

また、国や地方自治体は、税金や国債・地方債を財源として政策を実行していることから、話題は自然と立法・行政・司法の三権分立へと広がっていきます。近年は選挙権年齢が18歳へ引き下げられたこともあり、選挙管理委員会との共同授業となることもあります。

三権分立の思想的源流は、モンテスキューの『法の精神』にあるとされています。そこでは、王侯貴族や宗教者に権力を集中させない統治機構の必要性が説かれました。この考え方は、現代の株式会社にも通じています。たとえば、株主総会を国会、取締役会を内閣、監査役会を裁判所になぞらえることで、それぞれの権限を分立させ、企業統治、すなわちコーポレートガバナンスの仕組みが構築されています。一方で、かつては役員の多くが社内出身者のみで構成されていたため、統治機能が十分に働かないケースもありました。その反省から、現在では社外役員の選任が進められています。

私自身も監査役として、その意義をしっかりと理解しながら、今後も職責を果たしてまいりたいと考えています。

内部通報制度

不正行為の未然防止、
早期発見を図っています

当グループでは、法令違反、規程違反、社会通念に反する行為などを早期に発見し、不正行為を未然に防ぐとともに必要な改善を図り、コンプライアンス経営の推進を目的として、内部通報・相談窓口（グッドホールディングス・ヘルプライン）を設置しております。通報・相談窓口は、社内と社外の両方に設置し、匿名での通報や組織的な問題に関する通報を行いやすいよう配慮した制度になっております。

事業継続計画（BCP）の取り組み

BCPマニュアルの策定と改定に
取り組んでいます

当グループでは、大規模地震や大型台風の発生を優先対応リスクの一つと位置づけています。私たちは、従業員とその家族の生命と安全を最優先に確保し、地域社会の早期復旧と顧客の事業活動への貢献を目指し、BCP（事業継続計画）マニュアルの策定と改定を進めています。また、2020年3月には新型コロナウイルス感染症の拡大に対して、従業員の健康・安全の維持と社会的な使命を帯びた事業の継続を担保するために、新型コロナウイルス対策としてBCP災害対策本部を設置し、感染症による事業リスクや防止対策、感染した従業員への休業補償などについて協議、情報共有を行いました。

安否確認システム導入

人手に頼らず災害時に確実に従業員（正社員だけでなくアルバイトや派遣社員なども含め）の安否確認を迅速、確実に実施できるように、2020年9月に安否確認システムを導入しました。これにより、短時間での従業員の安否確認と情報伝達が可能となりました。

BCP訓練

2025年7月にBCP訓練を実施しました。台風および震災を想定した初動対応や安否確認を実施しました。

45

46

苦情・事故

2025年度の苦情・事故は120件（苦情13件、事故88件、労災12件、危険事象6件、情報システム関連1件）でした。

社会にとっても、働く従業員とその家族にとっても安全で安心な企業をめざし、再発防止に努めてまいります。

リヴァックス

件 数	内 容	原 因	対 策
苦情8件	取引先に設置している自社コンテナから液漏れが発生した	水洗いは除去出来ていなかった油分や鉄サビが雨水とともに流れ出た	段ボール等を吸収敷材として利用し流出を防止する
	取引先の脱水汚泥を10tコンテナ車で運搬中、通行人からの臭気苦情について環境保全課から連絡を受けた	・荷物の強い臭気と渋滞等による長時間の停車が重なり、周囲に臭気が滞留したため ・手順通りコボレーンを閉めていたが、完全密閉構造ではないため	当該荷物を運搬する際は、任意で迂回ルートを使用する
	国道43号線を走行中、自社の大型箱車が速度超過で走行しているとの指摘がグループ会社からあった	渋滞がなかったため、無意識に速度超過した	車両番号と通行時刻から運転者を特定し、注意喚起
	近隣企業より、早朝から臭気が継続しているとの連絡を受電	近隣への訪問確認により、排水処理設備からの臭気と消臭剤が混合した臭いと推測	排水処理設備の曝気風量を下げて臭気を緩和し、消臭剤の噴霧量を増量
	近隣企業より、排水処理施設の壁から汚水（泡）が流出しているとの報告を受電	消泡剤の残量が少なくなっていた	消泡剤の残量管理の徹底
	行政の担当課より、近隣企業から悪臭に関する通報があった旨の連絡を受電	環境保全課による立入をして頂くも臭気および原因特定には至らず	続報があれば連絡いただく
	近隣企業より、以前から臭気が強くなっているとの相談があり、健康被害の懸念や体調不良者発生の可能性から対策協力の要請を受ける	・相手方担当者の来社にて排水処理施設からの臭気の原因と特定 ・消臭剤の噴霧量を増やして対策していたが、隣接工場の誘引ファンから臭気が進入し、検査室内まで拡散したと推測された	臭気を屋外に逃がさないよう臭気吸引ファンの配管を増設し、薬液洗浄装置を通して臭気を除去
	返却したパレットおよびクレートの一部に汚れが付着していると引取先から報告を受電	鳥獣の糞が付着した	屋外保管時は汚れ防止として、最上段にカバー代わりのパレットを配置
	汚泥ホッパー下から退出する際、助手席側ミラーと建物が接触	確認不足	本人への注意
	取引先のバックを返却時に損傷があることを確認	突起部分による接触での破損、経年劣化と推測	突起部分の改善を依頼し、改善までは取り扱い注意を徹底
物損事故10件	通勤途中の上り坂での信号待ちの際、車内で落とした物を拾おうとした時に車が後退し、後続車に接触	・ギアがニュートラルだった ・サイドブレーキの引きが甘かった	本人への注意喚起
	乾燥プラントの振動流動冷却装置ダクトから集塵機にかけて設備内部で発火・延焼が発生し、集塵機以降のダクトへも延焼して薬液洗浄塔排気筒から白煙が放出	・BSFの粉末がダクト内に堆積し、油脂の酸化による自己発熱から自然発火に至った ・該当ダクトが粉体の滞留しやすい構造であり、プラント停止時に都度清掃は行っていたが、頻度が見合っていないかった ・また、前回火災時の対策範囲外であった為、温度計や散水設備が未設置のため初期消火ができなかった	【運用面】冷却装置から集塵機間のダクト内部を定期確認し、堆積物の清掃を実施 【設備面】該当ダクトに外面鉄皮温度計を設置 【設備面】異常温度感知時に作動する散水消火設備の追加導入を検討
	消化液脱水汚泥のコンテナ箱引き上げ後の確認時、コンテナ助手席側後方のキャッチ部分の曲がりが発見	・床面に敷いた鉄板の反り返り部分に、引き上げ中のキャッチが接触した ・誘導員はコンテナ上部の確認を優先しており、安全上の理由から後方確認の人員を配置していなかった	鉄板の反り返り部分切断
	取引先での積み込み作業時、下ろしたコンテナの横にシャシを停車させる際、コンテナ角と助手席側バンパーが接触	運転手の後方確認不足	本人への注意喚起
	取引先構内にてバックで進入中、フロントオーバーハングにより建屋とアンダーミラーが接触	運転手の確認不足	本人への注意喚起
	取引先のグリストラップ槽を清掃中、槽内の仕切り板を手から滑らせ、排水ポンプの配線を切断	油の付着した手袋を使用しており、手が滑ったため	本人への注意喚起
	メタン施設から電気自動車をバックで発進させた際、後方に駐車していた2t車と接触	運転手の後方確認不足	本人への注意喚起
	取引先で内容物入りのコンテナ箱を吊り上げ移動させ、別の場所へ下ろす際にレールから箱が外れ操作不能となった（レッカーとリフトで正常位置に修正し回収完了）	・積荷の偏荷重により正常な軌道で脱着ができなかった可能性（推測） ・レールツバがローラーに乗っていた可能性（推測） ・車内モニターで着地確認に集中しており、脱着への気付きが遅れた可能性（推測）	社内事例の共有による注意喚起
	バックカン内部に張り付いた袋の除去を試みたところ、右背中付近で異音が生じ負傷	道具を使わず手作業を行い、無理な体勢になった	道具を使用するよう手順化
	バイクでの退勤途中、交差点を徐行で左折する際にマンホール上でスリップし転倒	見慣れた通勤ルートのため、雨天時におけるマンホール上の危険認識が低下していた	本人への注意喚起
労働災害4件	火災時に初期消火を行った。その際に煙を多く吸ったので念のため救急搬送 ※検査結果としては異常なし	—	—
	乾燥プラントのメンテナンス作業時、原料コンベアのレール交換中にレールカバーが落下し左膝に接触	・落下防止のためベルトを順次取り外していたが、固定用として残していたベルトが機能しておらず落下 ・前回メンテナンス時の加工について伝達ミスがあり、実際は固定されていない状態を把握していなかった	・危険予知（KY）活動のレベル向上および事前実施の徹底 ・保全管理システムの活用を促進し、作業履歴の記録による抜け漏れを防止
危険事象1件	破砕線リフト（2t）の年次点検時、ステアリングシンリンダーに傷が確認された	パワーシンリンダーの付け根への異物付着	日時点検出で異物が付着していないか確認する

swell

件 数	内 容	原 因	対 策
物損事故5件	上り坂途中にて中央線付近に停車中の対向車とすれ違う際に接触	車幅の把握不足および事前停止などの回避行動の判断不足	本人への注意喚起し、当該ルートの通行を極力控える
	飲食店の駐車場から出る際、ポールに気付かず接触し車両の左前方ホイールを損傷	入庫時に視認していたものの、出庫時の周囲確認を失念していた	本人への注意喚起
	高速道路の料金所を通過中、左ミラーが施設に接触し損傷	通過時の前方不注意及びスピード超過	後日、カラーコーンを用いて同状況を再現し運転技能を確認
	取引先工場内にて自動運搬機が接近したため停止したが、停止位置が運搬ルート上であったため接触	・通常と異なるルートであり自動運搬機が通る認識がなかった ・主任者からの停止合図は聞こえたが、運搬機に関する詳細を聞き取れず周囲確認を怠った	【是正措置】運転者に対し、慣れないルートを通行する際の「一時停止」と「死角確認」の重要性について再教育を行う 【予防措置】安全意識を向上させるため、無事故・無違反の掲示板を作成し、見える化を行う安全に対して意識づけを高める
	ビット清掃作業時、ホースをビットに入れたまま休憩に入り、稼働中の攪拌機に巻き込まれてホースが破損	・休憩時にホースを垂らした状態のまま放置した ・攪拌機が作動しホースに接近していることに気付かなかった	・作業中に現場を離れる際は、作業員と主任者で現場の安全をダブルチェックする ・安全MTG、業務MTGにて現場設備に構造・機能を学習する。自覚確認記録にて理解度確認を行い、予防する
	手元作業中に手足のしびれと吐き気が生じ、構内の診療所へ救急搬送	・水洗作業のため、ヤッケではなく合羽を着用していた ・熱中症対策期間が終了していたため、計測器を使用していなかった	熱中症対策期間を延長
	現場研修の休憩中、喫煙後に意識が朦朧とし震えが生じたため救急搬送	不慣れな早朝出勤や朝食未摂取の状況下で、久々に喫煙したことが一因と推測	新入社員の現場研修時は、睡眠や朝食の摂取など体調管理を徹底させる
	片付け作業中、車両から降りる際に足を滑らせ、手首について負傷	車両の足場を使用せず、ショートカットのためスロープへ不安定な姿勢で移動したため	・作業終了時、疲れ等もあり気が緩む時期になるので一旦集合させ、意識的にスイッチを切り替える声掛けを行う ・業務MTGを通して「いつも通り」の中に潜む変化点をKYTで共有し、無意識の行動を意識化させて「自分事」として捉え、危険に対する感受性を高める予防を行う

リリーフ

件 数	内 容	原 因	対 策
物損事故10件	エレベーターの養生を剥がす際、エレベーターの塗装が剥がれた	一部塗装が劣化しており、養生テープの粘着力に耐え切れず剥がれたため	・塗装の劣化など剥がれる懸念がある場合は、事前に管理者に説明し養生を極力避ける ・養生が必須な場合は、マスキングテープを使用する
	高速道路にて追い越し車線へ車線変更をする際、後続車に気付かず接触	・後方の確認不足 ・運転時の安全意識の不足	・目視による後方確認の徹底 ・運転時の安全意識の向上
	車庫内の処分品移動に伴い電動シャッターを開けた際、安全装置の破損によりシャッター内部が乱巻きになり閉まらなくなった	シャッターを開放したため	・誤作動の有無について事前に担当者へ確認する ・見積時に空き家期間や不使用期間を確認する ・作業時はシャッターを全開にせず9分目で止める
	会社敷地内にて車両を駐車場に戻すための後退時、タンクカーのミラーに接触し破損させた	バック時の目視不注意	・運転時は周囲の目視を必ず行い、ミラーの角度を調整した上で発進する ・助手による誘導を実施する
	顧客宅の駐車場への後退駐車時、トラックの突起部分がブロック塀に接触し塀を損傷させた	誘導員が最後方部のステップのみを注視しており、右後方にある突起部分の接触を想定できていなかったため	・限界まで後退しようせず、余裕を持った停車を心掛ける ・誘導員は1点に集中せず、車両全体の状況を把握するよう意識する
	物品入りのカゴ台車を手押しで倉庫へ左折搬入する際、保管中の空カゴ台車群に衝突し、ドミノ倒しになった台車が倉庫扉の窓ガラスにヒビを入れた	・搬入動線の確認不足 ・台車を押す速度がやや速かった	・搬入動線を確認した上で作業を行う ・台車の移動速度を減速する ・カゴ台車の保管場所の変更を検討する ・扉前に防壁等の設置を検討する
	店舗駐車場の出口専用通路を走行中、対向車が進入してきたため急いで後退したところ、後方に駐車していた別車両と接触	・急な後退動作 ・車両後方の状況確認不足	いかなる状況においても周辺の安全確認を徹底した上で、ギアチェンジおよび発進を行う
	残置する必要があった洗濯機とエアコンを誤って処分した	・スケジュールへの残置物メモの記載漏れ ・前日までの担当者への確認不足	・写真見積みよりや鍵預かりなど立ち合いがないケースでは必ず事前確認を行う ・残置物がある場合はチェックシートやスケジュールへ必ず記載する
	バックカーでの家庭ごみ積込中、液体物が飛散し、作業場所の向かいにある住宅の玄関先を汚損した	収集業者の不注意	液体物は識別できるよう分別し、飛散の恐れがある場合は布団類を被せるか別積みする対策の徹底および収集業者への周知を行う
	車両での後退時、電柱に接触した	後方確認不足および目視による確認の怠り	バックモニターのみに頼らず、目視可能な車両においては必ず目視によるバックを行う
人身事故1件	陶器の処理作業中、手袋を貫通し右手人差し指を裂傷	皮手袋ではなくゴム手袋を着用して作業したため	皮手袋など貫通防止機能のある手袋を必ず着用して作業する

ダイキョウクリーン

件 数	内 容	原 因	対 策
苦情1件	清掃作業時、顧客への伝達事項が伝わっていないと感じ、繰り返し伝えた上で復唱を求めた結果、顧客の気分を害した	サービス業としての自覚が不足していた	・1人乗り業務を禁止する ・動画視聴による教育や自己啓発を実施する

物損事故22件	グリストラップ上部に干してあった使い捨て簡易ダスターをポータブルバキューム機で吸引した	作業前にダスターを移動させなかった	・作業前に周辺確認を行い、転倒や破損の恐れがある物品は移動させる ・立会い者がいる場合は一緒に確認して移動させる
	歩道のボラード(ポール)に気付かず作業車両を発進させ、ボラードの変形および車両のフロントバンパー等を破損させた	発進時の車両周辺の確認を怠った	発進前に車両周囲を目視し、障害物の有無を確認する
	店舗入店時、照明スイッチを探す際にシンク縁のガラスコップに接触し破損させた	暗闇で周囲が十分に確認できない状況で移動した	・ライト類を使用し、周囲を十分確認して移動する ・全従業員へのペンライト支給、日報へのチェック欄追加、マニュアル記載およびミーティングでの周知を実施
	駐車場内でバック進行中、がたつきのある雨水樹の上を通過した際に鉄蓋が跳ね上がり、車両底部を破損させた	暗闇のため雨水樹のがたつきに気付かなかった	目視確認を徹底する
	槽内清掃中、槽の縁に立ち後退しながら作業した際、足を滑らせて体勢を崩し、右肘が食器に当たり茶碗を破損させた	・作業場所が狭く床が油で滑りやすい状況において、不安定な体勢で作業した ・食器類を事前に移動させていなかった	・滑りやすい箇所ではウエスで拭くなど、安全な体勢を整えて作業する ・食器類等のリスクを察知した際は事前に移動させる
	一般道の車寄せに停車中、車内から看板の写真を撮影しようとして後退した際、歩道のボラードに車両後部が接触し根元を破損させた	・降車して撮影する手間を省き、乗車したまま撮影しようとする省略行動をとった ・2名作業であったが、助手席の者が後方確認や誘導を怠った	・省略行動の禁止を周知する ・車両発進前の周囲確認を再周知する
	吸引作業中、ホース内に食器等が詰まったためホースを引き抜いたところ、詰まりが一気に解消された勢いで階段周囲に汚泥が飛散した	・ウエスで飛散防止対策はしていたが、1人で対応できると思い込んだ ・解消時の衝撃が想定より大きく、ウエスで保護しきれなかった	・施設担当者立会いの下で清掃し、同日に改めて謝罪と清掃を実施 ・ホースの詰まり解消は必ず2人で行い、安全な場所へ移動するか、作業と飛散防止の役割を分担する
	顧客敷地内の駐車場から左折発進する際、左側の縁石に車体左後方が接触し、フェンダー破損とタイヤのパンクが発生した	・前方道路が狭く鋭角であったため、左側に寄せて停車していた ・発進時に右前方に気を取られていた	・駐車位置を端に寄せすぎないように注意する ・焦らずに切り返しを行い、安全優先で走行するよう指導する
	駐車場から出庫する際、左側の低いブロック塀に気付かず早くハンドルを切らず、左側後方バンパーが接触した	・出庫時の安全確認(障害物の有無)が不足していた ・公道に出る際、前方の状況に気を取られていた	乗車前の周囲確認を徹底する
	バック駐車時に別車両に接触しそうになり、一時停止後ハンドルを切って前進した際、自車の右後方と駐車車両の左前方が接触した	・駐車スペースが狭いにもかかわらず、誘導を頼まずにバックした ・切り返せば自力で駐車できると通信した	・無理をせず誘導を依頼する ・駐車時はスペースに対して平行になるよう後退する
作業事故2件	汚泥の排出作業時、ホース側の吸引コックが完全に閉止していない状態で圧送を行い、ホース先端から汚泥が飛散した	・コックの完全閉止を確認していなかった ・作業の慣れによる確認不足	吸引コックのレバーと土台に完全閉止位置のマーカーを入れ、目視で確認できるようにする
	水道の復旧時、蛇口部品のネジ山の噛み合わせ不良に気付かず、経年劣化と勘違いして無理に締めようとして破損させた	復旧時に目視での確認を怠った	・目視確認を徹底する ・交換用部品を常備する
	ホースのジョイント部を2階の欄に宙吊りで固定した結果、吸引時の振動で接続部が外れ、各階の踊り場や歩道に汚泥が飛散した	・太さの異なるホースを繋ぐジョイント部を宙吊り状態にした ・固定用番線の締め付けや結束が不十分だった	・ジョイント部を宙吊りにしないよう設置し、番線による固定を確実に行う ・車両作業が危険と判断した際はポータブル機材へ切り替える ・事後対応として営業担当が現地で謝罪し、飛散箇所の清掃を実施した
	車両を移動させる際、車両左前方のカラーコーンに気付かず接触し破損させた	・乗車前の車両周辺の障害物確認を怠った ・当該カラーコーンが運転席からの死角にあった	・乗車前に車両周辺の確認を徹底する ・事後対応として関係者へ謝罪し、後日新品のカラーコーンと交換する
	商業施設での清掃後、槽内に水を溜めるためシンクから流水したが、水栓されていたためシンクが満水になり、保管中の寸胴鍋が倒れて食材が水没した	・シンクが水栓されていることに気付かず流水した ・流水中に次の作業へ向かい、現場を無人にしたままだった	・物品のないシンクを優先して使用し、水栓されていないことと流水が槽に流れていることを確認する ・1店舗ごとに完全復旧を確認してから次の作業へ移動する
	事業所内でバキューム車を移動させた際、ボックス扉が開き、隣接して駐車していた従業員の家用車を破損させた	車両移動前にボックス扉の施錠確認を怠った	・移動前のボックス扉の施錠確認を徹底する ・作業車と家用車の駐車スペースを分離し、入れ替え頻度が減るよう駐車位置を変更する
	撤収作業中、吸引ホースが消火器に接触し、消火器の封印テープが切れピンが外れた	作業範囲内に支障物があるにもかかわらず、その存在を明確に認識できていなかった	・支障の恐れがある物は事前に移動させる既存ルールを再認識する ・想定作業範囲から離れている場合でもリスク評価を行う
	清掃作業で店内を移動した際、補修中であった厨房と客席境界のモルタルを欠損させたと立会いの管理会社より指摘を受けた	作業範囲内に支障物があるにもかかわらず、その存在を明確に認識できていなかった	・改装中の注意箇所について、作業開始前に直接事前確認を行う ・具体的な指示を仰ぎ、作業員全員で情報を共有した上で作業を開始する
	交差点を左折する際、ハザード点灯で停まっていた駐車車両を回り込んだところ、相手が発進し自車の左後輪と相手の右前バンパーが接触した	・駐車車両が発進するかもしれないという予測ができていなかった ・回り込んだ際、駐車車両と自車との間隔に余裕がなかった	駐車車両が動くことを想定し、リスクを予測した運転を心掛けるよう注意喚起
	槽内の汚泥吸引時、ホースが揺れた拍子に付近にあった釜が槽内へ落下し、中のお米を汚損させた	・狭い作業場で無理な体勢で作業し、ホース経路の安全確保が不十分であった ・事前に転倒の恐れがある物品の確認を見逃していた	・安全な作業スペースを確保し、安定した姿勢で作業する ・転倒の恐れがある物品は事前に移動させることを徹底する
作業事故2件	高速道路の右車線を走行中、トラックの右フロントタイヤが右側の路側帯に接触した	雨天で視界が悪く注意力が散漫になり、路肩との距離を正確に把握できていなかった	悪天候時は視界不良であることを自覚し、速度や障害物に十分注意を払う
	搬入場から出庫するため車両を後退させた際、施設のコンクリート壁面に接触させた	作業員2名に対し車両も2台あったため、各々が運転を優先し後退時の周囲誘導を省略した	・発進前に車両周囲を目視し障害物の有無を確認する ・2名以上いる場合は必ず周囲誘導を実施し、1台ずつ出庫する
	施設内店舗での清掃作業後、止水・消灯・施錠の店舗復旧を怠り、翌日の店舗からの連絡により発覚した	欠員状態や時間指定に追われ、ルールを省略して作業を実施した	・施設作業の担当者全員でミーティングを実施し、復旧ルールを再周知する ・施設用チェックシートに止水、消灯、施錠の確認項目を追記する
	商業施設での清掃作業後、複数店舗において止水、消灯、施錠の漏れがあり、施設管理者や警備担当者に対応した旨の連絡を受けた	・1店舗ごとの完了チェックを終えないまま次の作業へ移った ・目視確認およびチェックシート記入後の再確認を怠った	・チェックシートに「最終チェック」の項目を追加する ・作業実行者とシート記入者を分け、相互チェックを実施し、施錠はシート記入者が手で触れて確認した後に記入する
	人身事故1件	歩道を横断する形で設置したホースに自転車が接触して転倒し、子供が負傷した	ルール化されていた作業中看板や、ホースを跨ぐための鉄製踏板の設置を怠った
	危険事象3件	清掃時に開口したマンホールを閉める際、枠に収まっておらずがたつき状態のまま現場を離れ、顧客からの連絡で再訪問した	・現場復旧時の確認不足 ・マンホールのがたつきによる転倒事故等のリスクに対する意識が不足していた
		作業終了後、使用したコンセントに元から差さっていたプラグを戻した際に火花が発生した	・コンセント付近の埃によるトラッキング現象の可能性 ・たこ足配線による過剰負荷の可能性
		清掃時に流入口へ一時的に詰めたウエスを回収し忘れた店舗営業中に排水が逆流して厨房や客席に漏水した	作業写真撮影ため利用したウエスを回収し忘れた
	情報セキュリティ1件	施設内での作業時に携行していた自社伝票およびマニフェストを紛失した	確認不足
			伝票類はバインダーごとケースに収納して所定の場所に保管し、作業完了時など必要な時以外は触れないよう管理する
大栄衛生			
苦情2件	件 数	内 容	原 因
		トラックで一方通行路から本線の合流した際に「車両を急停車させられ不快な思いをした」と苦情を頂いた	・相手車両が譲ってくれたと誤認(思い込み) ・合流時の相手方との明確な意思疎通不足
		市民さまより「ごみ回収時に一方通行をバックで進入しており、逆走で危険」と苦情を頂いた	作業効率を優先し、バックによる進入(逆走)という危険な交通違反行為を選択していた
		反転装置を使用してごみを収集中に昇降のタイミングを誤り、ダストボックスを巻き込んで破損させた	反転式コンテナ使用中は回転板を停止させる手順を省略した
		雨天時、前方の車両が減速したので自身もブレーキを踏んだところ濡れた横断歩道で滑ってしまい、前方の車両へ追突した	・十分な車間距離を確保していなかった ・雨天走行時の危険性を軽視していた
		後退時に助手を降ろさずに後退をしたところ、後ろにいた原動機付き自転車のフロントフェンダーに接触させた	・本人の確認不足 ・助手を降車させる手順省略
		反転装置を使用してごみを回収していた際、昇降のタイミングを誤り、ダストボックスを巻き込んで破損させたため	手順を省略し、連動サイクルで反転装置を使用したため
		運転練習での左折時、左側に寄りすぎたためガードレールに後輪の泥除けを接触させた	運転手の確認不足
		反転装置を操作中、すり抜けようとした歩行者がいたため、接触を避けようとして身をかわした際に回転板の停止操作が遅れてしまいダストボックスを破損させた	・手順を省略し、連動サイクルで反転装置を使用したため ・歩行者に対する危険予測が不足していたため
		後続車に道を譲ろうと車両を左に寄せたところ、寄せすぎて左前輪タイヤのナット部分を壁の角に接触させた	運転手の確認不足
物損事故16件		マンション敷地内からの出庫時、ロボットゲートのチェーンと接触してしまい固定部ピンを破損させた	・チェーンを跨いだ位置で停車してしまっていたため ・センサー不備によりチェーンが上昇してしまっていたため
		家用車で通勤中、走行中の道路に面したコインパーキングから出庫してきた相手方の車両と接触した	・相手方の確認不足(急いでいて安全確認をせずに出庫) ・本人の前方不注意
		マンションのごみ庫へ向けてバックする際、助手を降車させずに歩行者が途切れたタイミングで急いでバックさせ、運転を誤って建物の外壁にリアバンパーを接触させてしまった	・歩行者の往来が多く、人が途切れたタイミングを狙って急いでバックし安全確認を怠った ・手順である「助手の降車および誘導」を省略し、運転手の判断のみで後退させた
		顧客の敷地でごみを回収後、駐車スペースで方向転換を終えて発車する際に横に駐車していた車両に内輪差により接触させてしまった	・相手車両との安全な間隔を十分に確認しないまま移動を開始した ・内輪差による接触の危険性を察知していたにもかかわらず、車両の移動を依頼しなかった ・「当たらないだろう」という思い込みによる確認不足
		学校で廃棄物回収場所に納品業者がいたので手前で待機していたが、バックの音がしたので出て行ったと思いミラーで確認して車両を後退させたところ、真後ろで停車していた納品業者の後部に接触させた	・先行業者の退出を目視ではなく音だけで判断し、バックミラーのみに頼って後退した ・作業の遅れを取り戻そうと焦り、助手の誘導を省略した ・適切な待機場所で安全な状態を確保していなかった
		回収先の敷地内でぬかみへはまってしまったため、自社の別車両をロープで牽引して脱出させた際、牽引車両の front部と当事者車両の後部が接触し破損させた	・短いロープしかなかったため、車両間の適切な車間距離が保てないまま牽引した ・事前に牽引時の安全な合図や手順を事前に取り決めなかった
		取引先敷地にてごみ庫へ向けて大型車両で後退中、集水桝の溝蓋(鉄板)が破損してズレてしまい、そこに後輪が落下して自走不能となってしまった	・集水桝の溝蓋が経年劣化していた、または自社の大型車両の重量を下回る耐荷重だった ・後退時に集水桝等の上を通過するリスク(耐荷重や老朽化)の予測が不十分だった
		反転装置を操作していた際、反転ボックスが完全に下がり切っていない状態で積み込み操作を行った	・反転ボックスが完全に下がり切っていない状態で積み込み操作を行った ・機器の動作状況の目視確認を怠り、規定の作業手順を省略した
		交差点で信号待ちの際、小回りで右折してきた相手車両とすれ違うのが困難になり、前進してかわそうとしたところ自車のドアウインカーが相手方の右後部フェンダーに接触した	・すれ違いが困難な状況において、無理に前進してかわそうとした ・前進する際、相手車両との間隔を目視で直接確認することを怠った ・自車の車両感覚に対する認識が不十分であった
			・顧客敷地内ではマンホールや鉄板の耐荷重・老朽化を予測し、極力踏まずに通行する ・車両の乗り入れが困難な場合は人力での運び出して対応する ・物理的に不可能な場合は会社へ報告し、ごみ庫の移動を顧客へ依頼するよう周知

物損事故16件	歩道を横断する形で設置したホースに自転車が接触して転倒し、子供が負傷した	ルール化されていた作業中看板や、ホースを跨ぐための鉄製踏板の設置を怠った	・ルールの徹底を指導する ・今後当該コースは必ず2名体制とし、1名は歩道上のホース経路で誘導にあたることを徹底する
	清掃時に開口したマンホールを閉める際、枠に収まっておらずがたつき状態のまま現場を離れ、顧客からの連絡で再訪問した	・現場復旧時の確認不足 ・マンホールのがたつきによる転倒事故等のリスクに対する意識が不足していた	・復旧後の確認を徹底する ・業務マニュアルの注意事項にヒヤリハットとして追記し、共有と意識づけを継続する
	作業終了後、使用したコンセントに元から差さっていたプラグを戻した際に火花が発生した	・コンセント付近の埃によるトラッキング現象の可能性 ・たこ足配線による過剰負荷の可能性	・コンセント復旧時は周辺の埃を拭き取る ・たこ足配線の場合は一時的に状態を解消し、順番に復旧する
	清掃時に流入口へ一時的に詰めたウエスを回収し忘れた店舗営業中に排水が逆流して厨房や客席に漏水した	作業写真撮影ため利用したウエスを回収し忘れた	・排水が流れていても槽が空の写真にこだわらず撮影し、排水が止まらない旨を報告する ・復旧時の確認事項に使用したウエスの枚数を含め、道具の管理を徹底する
	施設内での作業時に携行していた自社伝票およびマニフェストを紛失した	確認不足	伝票類はバインダーごとケースに収納して所定の場所に保管し、作業完了時など必要な時以外は触れないよう管理する
	件 数	内 容	原 因
		トラックで一方通行路から本線の合流した際に「車両を急停車させられ不快な思いをした」と苦情を頂いた	・相手車両が譲ってくれたと誤認(思い込み) ・合流時の相手方との明確な意思疎通不足
		市民さまより「ごみ回収時に一方通行をバックで進入しており、逆走で危険」と苦情を頂いた	作業効率を優先し、バックによる進入(逆走)という危険な交通違反行為を選択していた
		反転装置を使用してごみを収集中に昇降のタイミングを誤り、ダストボックスを巻き込んで破損させた	反転式コンテナ使用中は回転板を停止させる手順を省略した
		雨天時、前方の車両が減速したので自身もブレーキを踏んだところ濡れた横断歩道で滑ってしまい、前方の車両へ追突した	・十分な車間距離を確保していなかった ・雨天走行時の危険性を軽視していた
		後退時に助手を降ろさずに後退をしたところ、後ろにいた原動機付き自転車のフロントフェンダーに接触させた	・本人の確認不足 ・助手を降車させる手順省略
苦情2件		反転装置を使用してごみを回収していた際、昇降のタイミングを誤り、ダストボックスを巻き込んで破損させたため	手順を省略し、連動サイクルで反転装置を使用したため
		運転練習での左折時、左側に寄りすぎたためガードレールに後輪の泥除けを接触させた	運転手の確認不足
		反転装置を操作中、すり抜けようとした歩行者がいたため、接触を避けようとして身をかわした際に回転板の停止操作が遅れてしまいダストボックスを破損させた	・手順を省略し、連動サイクルで反転装置を使用したため ・歩行者に対する危険予測が不足していたため
		後続車に道を譲ろうと車両を左に寄せたところ、寄せすぎて左前輪タイヤのナット部分を壁の角に接触させた	運転手の確認不足
		マンション敷地内からの出庫時、ロボットゲートのチェーンと接触してしまい固定部ピンを破損させた	・チェーンを跨いだ位置で停車してしまっていたため ・センサー不備によりチェーンが上昇してしまっていたため
		家用車で通勤中、走行中の道路に面したコインパーキングから出庫してきた相手方の車両と接触した	・相手方の確認不足(急いでいて安全確認をせずに出庫) ・本人の前方不注意
		マンションのごみ庫へ向けてバックする際、助手を降車させずに歩行者が途切れたタイミングで急いでバックさせ、運転を誤って建物の外壁にリアバンパーを接触させてしまった	・歩行者の往来が多く、人が途切れたタイミングを狙って急いでバックし安全確認を怠った ・手順である「助手の降車および誘導」を省略し、運転手の判断のみで後退させた
		顧客の敷地でごみを回収後、駐車スペースで方向転換を終えて発車する際に横に駐車していた車両に内輪差により接触させてしまった	・相手車両との安全な間隔を十分に確認しないまま移動を開始した ・内輪差による接触の危険性を察知していたにもかかわらず、車両の移動を依頼しなかった ・「当たらないだろう」という思い込みによる確認不足
		学校で廃棄物回収場所に納品業者がいたので手前で待機していたが、バックの音がしたので出て行ったと思いミラーで確認して車両を後退させたところ、真後ろで停車していた納品業者の後部に接触させた	・先行業者の退出を目視ではなく音だけで判断し、バックミラーのみに頼って後退した ・作業の遅れを取り戻そうと焦り、助手の誘導を省略した ・適切な待機場所で安全な状態を確保していなかった
		回収先の敷地内でぬかみへはまってしまったため、自社の別車両をロープで牽引して脱出させた際、牽引車両の front部と当事者車両の後部が接触し破損させた	・短いロープしかなかったため、車両間の適切な車間距離が保てないまま牽引した ・事前に牽引時の安全な合図や手順を事前に取り決めなかった
作業事故2件		取引先敷地にてごみ庫へ向けて大型車両で後退中、集水桝の溝蓋(鉄板)が破損してズレてしまい、そこに後輪が落下して自走不能となってしまった	・集水桝の溝蓋が経年劣化していた、または自社の大型車両の重量を下回る耐荷重だった ・後退時に集水桝等の上を通過するリスク(耐荷重や老朽化)の予測が不十分だった
		反転装置を操作していた際、反転ボックスが完全に下がり切っていない状態で積み込み操作を行った	・反転ボックスが完全に下がり切っていない状態で積み込み操作を行った ・機器の動作状況の目視確認を怠り、規定の作業手順を省略した
		交差点で信号待ちの際、小回りで右折してきた相手車両とすれ違うのが困難になり、前進してかわそうとしたところ自車のドアウインカーが相手方の右後部フェンダーに接触した	・すれ違いが困難な状況において、無理に前進してかわそうとした ・前進する際、相手車両との間隔を目視で直接確認することを怠った ・自車の車両感覚に対する認識が不十分であった
			・顧客敷地内ではマンホールや鉄板の耐荷重・老朽化を予測し、極力踏まずに通行する ・車両の乗り入れが困難な場合は人力での運び出して対応する ・物理的に不可能な場合は会社へ報告し、ごみ庫の移動を顧客へ依頼するよう周知
			・作業手順を当事者へ再指導 ・全作業員に対し、正しい作業手順の遵守を再周知
			・前進での回避が難しい場合は無理をせず、後退してスペースを作る ・日常的に車両の大きさを考慮し、交差点では停止線より手前で停車しておく ・必要な場合は助手に降車してもらい、誘導を受ける

人身事故3件	信号待ち中にギアを入れたままルート確認をしていたため、クラッチから足が離れてしまい横断歩道を渡っていた高齢の女性に接触させた	・ ルート確認による注意散漫および脇見運転 ・ 見切り発進による発進前行動の不遵守	・ 助手がルート確認を担い、運転手は運転に集中する役割分担を徹底することを指導 ・ 信号待ち時は「ギアを抜き、サイドブレーキを引く」基本動作を指導
	トラックで自転車の側方を通過する際、自転車の右ハンドルと自車のボディを接触させてしまい、相手方の左手薬指を負傷させてしまった	・ 歩行者との安全間隔不足 ・ 運転手の確認不足	・ 歩行者との安全間隔について指導教育 ・ 運行管理者より安全運転の指導教育
	ワンマン乗車で信号のない交差点を左折した際、歩道を直進してきた電動自転車に接触して転倒させた	・ 交差点の左折時における徐行および安全確認を怠った ・ スピードを出した電動自転車の接近に対する危険予測が不足していた ・ 普段から助手に安全確認を任せきりにしており、運転手自身で確認する習慣が欠落していた	・ 右左折時は必ず徐行し、運転手自身の目視で安全を確認してから曲がることを指導 ・ 助手に頼りきりにならず、主体的に安全確認を行うよう当事者と全員で再周知
労働災害8件	二輪車で通途中、前方の軽トラックが急ブレーキをかけたため自身もブレーキをかけたところ雨で濡れた白線の上で滑り転倒した	本人の車間距離不足	十分な車間距離の確保と雨天時など路面状況に応じた慎重な運転の徹底を指導
	車両の洗車後の清掃中にホース掛け（アルミ製角部）に頭部を強打し、頭部を裂傷した	本人の確認不足	どんな場面でも周囲の安全確認を必ず行ってから行動すること指導
	反転装置使用時に、ごみが反転装置の爪部分に引っ掛かったので取り除こうとした際、誤操作した爪部分で右手薬指を挟んでしまった	左手が反転装置レバーにかかっていたことで誤操作が発生した	ごみを取り除くなどする場合は必ず操作レバーから手を放すことを指導し、全員に再周知
	ベランダの片付け作業中、物置隙間のごみを回収していた際にスズメバチに刺された	－	周囲をよく確認する
	オートバイでの帰宅途中に直進していたところ、右折車両と接触して転倒し、自身が救急車で運ばれた	双方の前方不注意	通勤時においても交通法規を遵守し、安全運転を徹底するよう本人に指導、全員で再周知
	大型車両での収集作業中、降車時に左手へ無理に体重をかけてしまい、夜間に腫れが酷くなったため受診したところ左小指の剥離骨折と診断された	降車時に左手に過度な負荷をかけるという、不安全な方法で行動した	安全乗降手順書を作成し、本人に指導教育、全員で再周知
危険事象1件	収集作業中の乗降時に膝と股関節を痛めた	・ 入社10日目であり、車両乗降時にステップを正しく使いこなせていなかった ・ 車両が完全に停車する前に降車しようとするなど、不安全な行動があった	・ 安全乗降手順書を用いて当事者の復職後に改めて適切な乗降方法の指導教育を行う ・ 新任作業着用 安全作業日報を作成し、運用開始
	可燃ごみの収集作業中、重量のある袋を持ち上げた際に腰を痛み、帰宅後に受診したところ椎間板損傷と診断された	・ 後方から車両が接近してきたため、焦って作業を行ってしまった ・ ごみ袋が重いことを予測せず、腰に負担がかかる体勢で急に持ち上げてしまった	焦り慌てのリスク、重量のあるものを想定した作業等を本人に指導教育
	粗大ごみの回収業務中、車両から煙が出ていることに気付き、その場で積荷を排出して初期消火を行い、鎮火させた	・ 積荷に含まれていた古い8ミリフィルムの箱が激しく燃えており、同梱されていたフィルム洗浄液（可燃性液体）に何らかの原因で引火したと推測 ・ 回収時に箱などの内部（危険物の有無）に対する確認が不十分だった	・ 箱などの積荷は必ず中身の確認を行うこと、プレス車は火災リスクが高いことを全員に再周知 ・ 火災発生時に延焼や全焼などの重大事故を防ぐため、緊急時の対応手順と手順書の設置場所を再確認
大協			
件 数	内 容	原 因	対 策
苦情2件	可燃物の回収時、ペットボトルを混載しているとの苦情を受けた	後工程のペットボトル回収作業の負担を軽減しようとした	・ 仕様書に基づき契約違反となることを説明した ・ 再発時は業務従事禁止の可能性があることを伝え、事の重大さを認識させた
	自社のゴミ収集車が速度超過をしているとの苦情を受けた	前方の交通の流れが悪く、先を急いで突発的に近道をした	・ 突発的な経路変更の危険性を指導した ・ 社名を背負い常に見られているという意識を従業員全員に持たせた
物損事故10件	幹線道路をゴミ収集車で走行中、左折時に並走していた自転車を巻き込んだ	・ 自転車が死角を並走していた ・ 歩道上の確認および左折時の目視確認を怠った	・ 振り返り教育でドライブレコーダーの映像を関係者全員で確認した ・ 右左折時の手前での歩道確認と行動開始前の目視確認の徹底を周知した
	考え事をしながら車両を後退させ、建物の支柱に気づかず反転装置を接触させた	・ ピロティ内で薄暗く、普段と違う角度から後退した ・ 考え事をしており行動前の確認を怠った	・ 疲労時など精神的に疲弊している場合は運行管理者に報告し指示を仰ぐ ・ 運転に集中できない場合は原則として運転業務に従事させない
	左折時、進行方向の左手に逆向きの駐車車両があり、右に寄せて通過しようとした際、車両右後方上部が道路標識と接触した	・ 交差点出口付近に逆向きの駐車車両があり、普段と違う角度で進入した ・ 進入時に障害物を見落とした	・ 障害物等で通行が困難な場合は可能な限り迂回する ・ 迂回できない場合は関係者に声を掛け障害物を移動してもらうよう周知した
	狭い一方通行路での左折時、車両を右に寄せ過ぎたため、オーバーハングにより車両右後方がガードレールと接触した	・ 慣れない狭い道であり、左側の巻き込み防止に意識が集中した ・ 車両を右側に寄せ過ぎた	右左折時および発進時の三方向確認の徹底を再周知した
	直進中、右側駐車場から右折出庫してきた他社車両の前部と自車両の右後方部分が接触した	・ 相手方車両の前方不注意があった ・ 自社側の「だろう運転」による危険予測の欠如があった	「だろう運転」を排除し、他車が右折出庫してくるかもしれないと危険予測を行うよう周知した
	ゴミ集積所に停車する際、左に寄せ過ぎて街路樹に接触し左ミラーを破損した	・ 作業の効率化を優先し不要な操作を行った ・ 左への幅寄せ超過とブレーキ操作が遅れた	・ 停車時は対象物に極端に幅寄せせず十分に減速する ・ 作業手順から逸脱した不要な行動を禁止する
	収集作業のために後退した際、入り口のポールに接触し破損させた	・ チェーンが閉まっていないと思い込んだ「だろう運転」を行った ・ 後退時にバックカメラを確認せずミラーのみの確認不足があった	・ 後退時はミラー、バックカメラ、目視による三点確認を徹底する ・ 「だろう運転」を排除し、常に異常を予測する「かもしれない運転」を実践する
	収集作業終了後、左後方反転装置の油圧ホースがガードレールと接触し破損した	・ 前方の駐車車両を避けるための後退距離が不足していた ・ 急ハンドルで発進したためオーバーハングにより接触した	・ 障害物を避けられると思い込まず、十分な距離を確保する ・ 周囲の安全確認を徹底し、急な操作を伴わない運転を心がける
	左折時、オーバーハングにより車両右後方が電柱に接触した	・ 狭い住宅地において左前方の歩行者に意識が集中した ・ 歩行者を避けるため右に寄りすぎた	歩行者の通過を待ってから左折するなど、リスクを回避する行動を徹底する
	搬出作業終了後の発進時、ガードレールに接触し破損させた	・ 右側の建物に寄せて駐車しており、建物の屋根に意識が集中した ・ 前方に設置されていたガードレールに気づかなかった	停車時間が長くなる搬出作業等の後は、発進前の周囲確認を徹底する

人身事故4件	対向車線側にあるゴミを回収するため車両後方から道路を横断した際、対向車と接触し負傷した	・ 交通量が多く見通しの悪い場所での安全確認が不足していた ・ 自社および関係先における危険リスクの見積もりが甘かった	安全確認の徹底に加え、幹線道路の横断など危険性の高い作業工程の見直しを関係各所に申し入れた
	後退することを同乗者に伝えて降車させた後、十分に離れたと思い込み前進した結果、同乗者と接触した	・ 同乗者が作業に不慣れであった ・ 同乗者が車両から離れたと思い込み、安全確認を怠った	・ 同乗者は安全確認後に降車し、速やかに車両から離れる ・ 運転手は同乗者の安全な退避を直接確認してから車両を動かす
	歩道上のゴミ集積所のフタを開けた際、通行中の自転車とフタが接触し相手が負傷した	・ 歩行者や自転車の往来が多い場所であった ・ 作業前の周囲の安全確認が不足していた	・ 作業内容の変更に伴う危険箇所の変化に対し、行動前の確認を徹底する ・ 手順書の確認時に危険予知の重要性を継続して指導する
労働災害1件	T字路の右折時、歩道から車道へ進入しようとした自転車と車両左前部が接触した	・ 自転車が動かないと思い込んだ「だろう運転」を行った ・ 一時停止位置で完全に車両を停止させなかった	・ 一時停止線では必ず完全停止する ・ 左右の安全確認を完了させてから発進することを徹底する
	回収作業のため車両を左側に寄せた際、動いている車両から降車した作業員の左足かかとが左前輪と接触し負傷した	・ 作業の遅れから焦りが生じ、効率を重視しすぎた ・ 完全に停車していない状態の車両から降車した	降車時は必ず車両が完全に停車した状態で行うことを周知した

グッドホールディングス

件 数	内 容	原 因	対 策
危険事象1件	来客用駐車場での駐車時、カーポートの屋根と取引先車両が接触した	・ 駐車時にカーポート側へ幅寄せしすぎた ・ カーポートの屋根付近が運転席からの死角になっていた	カーポートの屋根に運転手が視認しやすい反射板を取り付けた

ISO26000対照表

	中核主題および課題	対応ページ		中核主題および課題	対応ページ		中核主題および課題	対応ページ
6.2	組織統治	P42、45、46	6.4.7	職場における人材育成および訓練	P36	6.7.4	消費者の安全衛生の保護	P21、39
6.3	人権		6.5	環境		6.7.5	持続可能な消費	P2、3、23
6.3.3	デューディリジェンス	P34	6.5.3	汚染の予防	P20、52	6.7.6	消費者に対するサービス、支援、並びに苦情および紛争の解決	P47～52
6.3.4	人権に関する危機的状況	P47	6.5.4	持続可能な資源の利用	P39、41	6.7.7	消費者データ保護およびプライバシー	－
6.3.5	加担の回避	－	6.5.5	気候変動の緩和および気候変動への適応	P39、40	6.7.8	必要不可欠なサービスへのアクセス	P29、31
6.3.6	苦情解決	P42、46、47	6.5.6	環境保護、生物多様性、および自然生息地の回復	P39、40、43	6.7.9	教育および意識向上	P36、37
6.3.7	差別および社会的弱者	P5、35	6.6	公正な事業慣行		6.8	コミュニティへの参画およびコミュニティへの発展	
6.3.8	市民的および政治的権利	－	6.6.3	汚職防止	P45、46	6.8.3	コミュニティへの参画	P43
6.3.9	経済的、社会的および文化的権利	－	6.6.4	責任ある政治的関与	－	6.8.4	教育および文化	P36、37
6.3.10	労働における基本的原則および権利	P5、35	6.6.5	公正な競争	－	6.8.5	雇用創出および技能開発	P11、29
6.4	労働慣行		6.6.6	バリューチェーンにおける社会的責任の推進	P15、20	6.8.6	技術の開発および技術へのアクセス	P17
6.4.3	雇用および雇用関係	P35、36	6.6.7	財産権の尊重	－	6.8.7	富および所得の創出	－
6.4.4	労働条件および社会的保護	P35～38	6.7	消費者課題		6.8.8	健康	P5、36、37
6.4.5	社会対話	P41、43、44	6.7.3	公正なマーケティング、事実 に即した偏りのない情報、および公正な契約慣行	P43	6.8.9	社会的投資	P43、44
6.4.6	労働における安全衛生	P35～38						

洗車場水質検査結果（2025年5月22日実施）

計量の対象	単位	規制基準	計量の結果	計量の方法
カドミウム及びその化合物	mg/L	0.03	<0.003	JIS K 0102-3 14
シアン化合物	mg/L	0.3	<0.1	昭和46年 環境庁告示第59号 付表1
鉛及びその化合物	mg/L	0.1	<0.01	JIS K 0102-3 13
六価クロム化合物	mg/L	0.1	<0.02	JIS K 0102-3 24.3.1
砒素及びその化合物	mg/L	0.05	<0.01	JIS K 0102-3 20
水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物	mg/L	0.005	<0.0005	昭和46年 環境庁告示第59号 付表2
銅及びその化合物	mg/L	3	<0.1	JIS K 0102-3 11
亜鉛及びその化合物	mg/L	2	0.09	JIS K 0102-3 12
鉄及びその化合物(溶解性)	mg/L	10	<1	昭和49年 環境庁告示第64号 付表2
マンガン及びその化合物(溶解性)	mg/L	10	<0.1	JIS K 0102-3 15
クロム及びその化合物	mg/L	2	<0.02	JIS K 0102-3 24.2
水素イオン濃度 (pH)	－	5.0を超え9.0未満	6.4	JIS K 0102-1 12
ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量)	mg/L	5	<1	JIS K 0102-1 附属書D.2
ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂類含有量)	mg/L	30	11	JIS K 0102-1 附属書D.3



捉える、応える、超えていく

グッドホールディングス株式会社

株式会社リヴァックス

株式会社swell

株式会社リリーフ

株式会社ダイキョウクリーン

株式会社大栄衛生

株式会社大協

お問い合わせ先

グッドホールディングス株式会社

経営サポート部

〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号

TEL:0798-61-1983 E-mail:csr@goodhd.co.jp

